

第8号（1）様式

外交・安全保障調査研究事業費補助金
補助事業実績報告書

※本報告書のほか、事業成果をアピールする資料（パワーポイントや動画等自由書式。最大3枚/3分程度）を提出すること。

（※当該資料は、単なる活動報告にしないこと。事業の新規性、研究成果によって得られた新たな知見及びそれに基づく政府へのアウトプット・提言等、事業成果について記載すること。）

1. 基本情報	
事業者名 東京大学先端科学技術研究センター	
事業区分・テーマ	※事業区分（発展型総合事業・総合事業・調査研究事業）及びテーマを記載。発展型総合事業「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」
事業名及び事業概要	※事業計画書の該当部分を転載。 ロシアのウクライナ侵略は何故起こり、国際秩序にどのような影響を与えたのか、日本のいかなる安全保障政策が求められるのか、総合的で戦略的な調査研究・提言を行う。産学官の連携や振興技術の積極的な活用により、我が国の外交・安全保障研究を質的に新たな段階に引き上げ、若手・女性・地方在住研究者の発掘・登用を独自の取組みを通じて行い、我が国の研究能力を底上げし、国際ネットワークの発展と対外発信力の強化を図る。
事業実施期間	※下記の期間から1つを選択し「○」を記入 () 1年間 (年度) () 2年間 (年度～ 年度) (うち 年目) (○) 3年間 (令和5年度～8年度) (うち 2 年目)

2 事業の成果（アウトカム）

評価要綱3の項目につき、以下①、②の自己評価を記載すること（分量は自由）。

（※ 活動実績の詳細や定量的実績は下記「3－1」～「4－2」の欄に記載すること。）

① どのように取り組み、どのような成果があったか（工夫を凝らした点、前年度の事業から改善した点を含む）。

新たに到来しつつあるポスト・ポスト冷戦世界において、日本が軍事的緊張の最前線に立とうとしているとの問題意識の下、我が国の外交・安全保障政策を支える各種研究能力の大幅なアップデートを図るという目標を本事業では掲げた。第1年度目においては前事業「体制間競争の時代における日本の選択肢」で立ち上げた各種研究プロジェクトの発展的継承と新規研究プロジェクトの立ち上げを中心として事業を展開したが、第2年度目はその成果を部分的にはあるが目に見える形で結実させていく段階を迎えた。個別の内容は後述するとして、ここでは全体的な成果を以下のようにまとめた（定量的指標については「3－2 事業の実施状況・成果の定量的概要」を参照）。

地域研究力の底上げ

本事業で立ち上げた4つの「地域系」研究会である、「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展望・帰結」、「ユーラシア諸地域の内在論理」、「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」、「広域中央アジアの重量化する安全保障環境」のそれぞれの研究会が、研究会合、成果物の刊行、現地調査、国際会議・国際セミナーの主催・共催等を、予定された回数実施した。ロシア・ウクライナ、中国とロシアの周辺ユーラシア及び広域中央アジアは、いずれも現代の外交・安全保障上の焦点となる戦略的地域でありながら、我が国において組織的な大規模調査研究が手薄な領域であり、それらの地域を対象とした研究会を同時に数多く、最有力の研究者を多く集めて組織し恒常的に活発に活動しうるのは、東大先端研 ROLES の置かれた特殊に恵まれた条件によるところが大きい。研究機関であり、教育機関であるという東大先端研 ROLES の比類なき強みを活かし、不確実な国際的情勢に対応して日本が的確な外交・安全保障政策を展開していく上で求められる地域研究力の底上げを、人材育成と知的資源の獲得・蓄積・整理の両面で力強く活発に推進できたと考える。また、これらの研究プロジェクトは純粋に学術的なものであるだけでなく、ロシアのウクライナ侵略、ガザ紛争、米中対立といった現在進行形の安全保障問題に臨機応変に対応し、我が国に外交政策に大きく資するものとなった。ほとんどの研究会合や、国際会議・国際セミナーは、外交・安全保障に関係する主要省庁の職員に対してオプザーバー参加を認め、多くの参加を得たため、政策立案に直接的に貢献できたと思われる。

国際的なシンクタンク・ネットワークの形成

第2年度目には諸外国の研究機関との交流が大きく発展した。中でも大きな特色は、現在進行形で

侵略に見舞われているウクライナ、ロシアとの強い関わりを持つエストニアやモンゴル、中国との軍事的緊張が高まる台湾、さらには中東といった地域との交流が活発になされた点にある。G7 諸国以外の、なおかつ外交・安全保障上の焦点となっている国々における見方や考え方を日本に直接伝えるとともに、日本としての立場を直接打ち込めるチャンネルを複数開拓できたことは大きな成果であった。

新しい研究アプローチの開発と実施

新しい研究アプローチの開発と実施は本事業の大きな特色であり、第2年度目にはこれが大きく進展した。第1年度目に引き続いて衛星画像分析研究会が活発に実施されたことに加え、研究メンバーの発案によって外交・安全保障に関する日本国民への世論調査プロジェクト（のちに研究会に格上げ）が開始されたことも重要な成果として付け加えたい。また、これらのアプローチによる研究成果は全て英語でも発信しており、国際的な反響も大きかった。固定された研究会に加えて、機動的にタスクフォースを設置して柔軟性を発揮するという本事業の設計が奏功したものとする。

産学連携と文理融合アプローチの採用

新しい研究アプローチと関連して、本事業では、産学連携と文理融合を掲げている。例えば衛星画像分析研究会は民間企業との協力を第1年度目から実施し、複数の民間企業社員を連携研究員として登用することも行っているが、第2年度目にはここから派生して民間インテリジェンスを行う社団法人 DEEP DIVE の立ち上げというスピンオフが生まれた。同社団法人では複数の衛星画像ベンダーや人工知能（AI）による分析ソリューションを提供する企業との協力が進められており、産学連携と文理融合の大きな成功事例となりつつある。これに加えて、UAE のシンクタンク Trends との間で AI の活用に関する国際シンポジウムが実施されたほか、東大情報学環渡邊研究室と合同で中東の報道機関アルジャジーラとバイルート・アメリカン大学（AUB）の専門家を招いてガザ紛争の可視化に関するイベントを実施した。世論調査研究会でも統計分析の専門家を巻き込んだ本格的な研究を展開し、国内外に広くアウトリーチを展開することができた。

若手・地方在住者・女性の登用

第1年度目に導入したインターン制度を拡充させた。従来は学部生及び大学院生を常時6人程度（3ヶ月から1年で交代）雇用して研究補助業務に当たらせていたが、第2年度目にはこれが11人にまで拡大している。各研究会・研究プロジェクトにおいても必ず若手・地方在住者・女性を含めることを原則として徹底した。

国内外へのアウトリーチ

国内外におけるセミナーやシンポジウムを活発に実施するとともに、研究メンバーの国内外メディアへの露出も積極的に展開され、最新の知見や我が国の立場を幅広く発信することができた。また、

第二年度目においては海外の有力ジャーナルに対する研究メンバーの寄稿も複数行われ、これが国際的なシンクタンク・ネットワークの強化につながるという正のサイクルを生み出すことができた。レポート、コメンタリー、ジャーナル類の刊行も非常に活発であった。さらに「若者の近くから語りかけるアプローチ」（後述）の実践に向けた体制づくりなど、日本のシンクタンクとして最も強力な発信力を築くことができたと自負する。

機動的な海外出張による時事的問題についての情報収集と国民の理解促進

ROLES が実施している各種の事業間で予算を拋出し合い、研究メンバーや研究メンバーの推薦した人材を海外調査に派遣する「遊軍」制度を設けた。また、これらの出張の成果は今後の学術的刊行物のための基礎とするだけでなく、まずは「出張報告」として速報的に公開することで、日本にとって戦略的に重要な国・地域の所在とその課題を特定し指し示すことで、国民の理解を促進すると共に、他のシンクタンクや関係官庁の事業展開にも資することを意図した。

活発な政策提言

アウトリーチの活発化に関連して、第2年度目には日本の外交・安全保障政策に関して具体的な政策提言も活発化させることができた。この点の手薄さは第1年度目の課題であったが、研究メンバーによる著作物においては取り扱う問題に対して日本としての対応に言及するよう周知徹底を行なうとの工夫を取り入れた。この点は後述する海底インフラ保護についての議論を喚起するなどの形で一定の成果を挙げたと考える。

外交・安全保障政策立案過程への知見の提供

これらの調査研究事業は、大学に位置するシンクタンクとしての学術的基準に基づき自律的に行われているものであるが、政策的インプリケーションを強く考慮して企画・実施されたものであり、各研究会の会合や、公開セミナーには外務省や国家安全保障局や防衛省や経産省などからの参加を呼びかけ、多くの参加を恒常的に得ていると共に、対象を担当する官庁の局長・審議官・参事官・課長・室長との協議を欠かさず行い、政策的ニーズを聴取して研究事業企画に活かすと共に、得られた最先端の知見・情報の提供により外交・安全保障政策の立案に資する情報提供の機会を提供した。

② どの部分につき進展・成果が不十分であったか。その原因、次年度での改善方法。

研究会によって成果物の発信に大きなばらつきがあったことは反省点である。研究メンバーのプロフィールや発信に関しても同様であった。この点については各研究会を担当する幹事と事業責任者の間で週1回のミーティングを行なって、従来よりも細かい頻度で進捗状況を確認・共有するという対策をすでに導入済みである。また、月一回のニュースレターを刊行し、他のシンクタンク・研究機関では常時雇用することができない地域専門家を多く抱える東大先端研 ROLES の常勤メンバーの専門的

知見を、定期的に恒常的に広く社会に提供することができる制度を整えた。

第二の反省点として、動画発信が全体的に低調であった。特に若者の情報源がインターネット上の動画メディアに大きく移行しつつあることを考えると、これは第3年度目での重要な改善点になると認識している。当面、第2年度の残り期間中に動画発信を強化するとともに、具体的な発信頻度目標を決めて定期的に実施状況をチェックするという対策を導入した。

第三に、政府当局への知見共有や提言をより強化する必要があると考えている。第3年度目においては2022年に策定された戦略三文書の中間評価という形で具体的な改善点の提言を行うことを予定しているが、その過程では政府当局者を直に巻き込んで一緒に考えていくというアプローチを実現したい。

(1) 補助事業の成果

(基礎的情報収集・調査研究(外交に資する政策志向の研究とし、政策提言を含む。))

- 他の類似事業と比べて新規性があったか。研究成果により新たな知見が得られたか。また、外交に資する政策志向の研究がなされたか。

① 政策への反映を意図した情報集・調査研究の展開

現在進行形の事態に対応した地域研究

本事業の大きな柱である地域研究力の底上げは、日本の外交・安全保障政策への貢献という観点からも重要である。前述した4つの地域研究系研究会のうち、「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展望・帰結」では、ロシアによるウクライナ侵略の現況と今後の展望に焦点を当てて、ロシア・ウクライナ双方の地域研究者だけでなく、エネルギーやサイバーといった関連領域の実務者を交えて研究を実施した。「ユーラシア諸地域の内在論理」では、米中対立という大国間関係の論理ではなく、その周辺地域にある中小国と大国の関係、あるいは中小国間の相互関係に着目するという独自のアプローチを採用することにより、ユーラシア地域における複雑なダイナミクスを理解するための研究活動が活発に展開された。これらの活動を横断した活動として、エストニアの国立シンクタンク ICDS やウクライナのシンクタンク NEC から所長クラスの研究者を招いたワークショップも実施することができた。

「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」では、ガザ紛争や中東地域で存在感を強めるトルコではイスタンブール工科大学と東大先端研との関係を強化し、日トルコ外交関係100周年の節目である2024年に両国で5回にわたる国際セミナー・シリーズを開催するなど、文理融合の政治外交研究を推進した。中東和平外交の鍵となるヨルダンの最有力の戦略研究センターとの連携協定を結び国際会議を共催し、湾岸産油国で活発に外交・安全保障政策を繰り広げるアラブ首長国連邦(UAE)の主要シンク

タンク Trends との協定を結び、「先端科学技術と安全保障」研究会と共に、年次国際会議を誘致して科学技術と安全保障の関係をめぐる大型の国際会議を共催するなど、中東の有力国との関係強化を大胆に進めた。2024 年度末には、東大情報学環渡邊研究室と合同で中東の報道機関アルジャジーラとベイルート・アメリカン大学（AUB）の専門家を招いてガザ紛争の可視化に関するイベントを実施した。

また、ガザ紛争の長期化によって学術的な協力関係の維持が難しくなっているイスラエルとも、東大先端研とヘブライ大学やテルアビブ大学との連携協定に基づく関係の維持や、東大先端研とライヒマン大学外交研究所が UAE のシンクタンク（アンワル・ガルガーシュ外交アカデミー）を交えて進めるシンクタンク協力が、日・イスラエル・UAE の三国対話の枠組み（UJI）の重要な一部を構成し、イスラエル及び湾岸産油国との三国の外交関係の一翼を担っていることはシンクタンクの外交への貢献の一つの実例として重要性を持つだろう。「広域中央アジアの重畳化する安全保障環境」では、広域中央アジアという独自のキーワードを用いて中央アジア諸国の反テロ協力など現在進行中の安全保障課題や中国との歴史的な関係性に関する研究活動が実施された。いずれも、大手シンクタンクの調査研究においては十分に光の当たってこなかった地域や領域を扱うものであり、地域研究力の底上げという本事業の目的に大きく貢献するものであったと考える。

衛星画像分析を用いた安全保障課題の発掘

伝統的な地域研究の手法に加えて、本事業では新たなアプローチを用いて日本の外交・安全保障政策に直接貢献する調査研究活動を引き続き展開することができた。その第一は「安全保障政策研究のための衛星画像分析」研究会の活動である。Maxar 社の高分解能光学衛星画像に加えて、日本地球衛星観測サービス（JEOSS）社の合成開口レーダー（SAR）を活用し、南シナ海における中国海上民兵の活動や、ロシアの核実験場の動き、北朝鮮の核・ミサイル・対露軍事協力の状況、ミャンマー内戦などに関して活発な観測と分析が行われた。その成果は、「ROLES SAT ANALYSIS」シリーズ（日英）によって順次公開され、国内外への発信にも大きく貢献している。また、第2年度目には衛星画像分析に留まらず、船舶自動識別装置（AIS）情報などのマルチモーダル分析手法が取り入れられたほか、現地事情を深く知るマスコミや商社の実務者を巻き込むことで産学連携プロジェクトとしても大きく成長した。

加えて、同研究会における活動は、笹川平和財団との協力による中国の核弾頭生産サイクルの解明プロジェクトの設置や、衛星画像分析を中心としたインテリジェンスを提供する一般社団法人 DEEP DIVE の立ち上げといった形で大きな波及効果を生んだ。

外交・安全保障に関する世論調査プロジェクトの開始とその反響

第2年度目においては、外交・安全保障に関する日本国民への世論調査プロジェクトがスタート

し、2回の調査が実施された。日本国民の脅威認識、防衛政策に関する考え方、諸外国に対する好感度に加えて、武力行使や核保有・持ち込みの是非といった突っ込んだ質問も敢えて行ったのが大きな特徴である。さらに今後は毎年継続的に調査を実施することで、日本ではこれまで見られなかった長期的かつ総合的な外交・安全保障世論調査へと発展していくことが期待される。その成果は英語版でも発信しており、すでに外国シンクタンクとの意見交換でも多くの反響を得た。また、本調査には統計分析の専門家や統計的手法を用いて研究を行う地域研究者を交えたことも大きな特色として挙げられる。調査結果をアカデミックな研究成果として海外の有力ジャーナルで発表できるようにとの研究設計であり、国際的な研究でも引用されることが期待できる。

② 成果物発信の高頻度化の必要性

第2年度目の反省点として、研究活動の活発さと比較して成果物の発信が弱かったことが指摘できよう。この点は特に地域研究系研究会で顕著であり、第3年度目では事業の総括も兼ねて成果物発信を高頻度化することが必要である。対策としては前述の事業責任者と感じの会合を通じて、成果物発信の状況をより細かくチェックすることとした。

- 事業テーマ及び補助事業者の企画に基づき、情報収集及び調査研究が的確に行われたか。

① 予定された情報収集・現地調査の着実な実施

本事業の第2年度目に予定された情報収集や調査研究をほぼ予定通りに実施することができた。第1年度目で問題となったプロジェクト管理の問題とその対策が奏功したものとする。また、上記のように本事業の枠内では世論調査プロジェクトが立ち上がるなど、本来の計画を超えて機動的な成果も生まれた。前述の「遊軍」制度を設けたことで、海外での情報収集も活発化した。

② 文理融合アプローチのさらなる推進の必要性

第2年度目の課題としては、研究会「先端科学技術と安全保障」の活動がやや不活発であった。解決策として、「先端科学技術と安全保障ダイアログ」の枠組みを立ち上げ、実際に先端科学技術を扱っている企業と、人文社会系の研究者や公官庁の実務者が一堂に介して「実際に技術に触ってみる」ことを目指した。第1回は2025年2月に衛星画像をテーマとして実施され、多くの参加者を得て衛星画像分析の社会科学への応用可能性を探る貴重な機会となった。2025年度以降もこの枠組みを継続する予定であり、第2回は量子技術をテーマに実施する。また、2025年3月31日は、東京大学情報学環との研究協力によりシンポジウム「Beyond the Headlines-データ・メディア・テクノロジーで読み解くガザ危機の深層-」を共催し、紛争の国際政治研究を、情報工学のアプリケーションを応用したデータ・

ビジュアライゼーションの手法による可視化により、より広範囲の受け手にリアリティを持って届ける手法を共同で提案した。このシンポジウムには UAE アブダビの NYU アブダビの研究者や、カタールのアル＝ジャジーラ研究所の研究者などが対面およびオンライン登壇し、ガザ紛争をめぐる国際的な議論の場を提供することとなった。今後はより幅広く先端学技術と安全保障との関わりについての研究活動を展開するための場として本枠組みを活用していきたい。

(機動的かつタイムリーな国内外への発信)

- 海外のシンクタンクの動向も参考に、広報責任者を設置する等の措置を講じて、訴求対象ごとに、発信のタイミング、形式、内容等を工夫し、戦略的な発信に意を用いているか。

① 多様な情報需要層に対するマルチチャンネル型発信

文字メディアの需要層に対する突っ込んだ地域的インテリジェンスの発信

第1年度目に広報責任者に任命したマスコミ出身の国末特任教授を中心として、通常のシンクタンクがあまり行ってこなかった多様な発信を展開することができた。

その第一は、活発な現地調査とその成果発信である。研究メンバーによる幅広い現地調査を多数実施してコメンタリーとして刊行した。日本にとって馴染みの薄いジョージアの政治情勢についての専門家解説も大きな反響を呼んだ。こうした文字による発信は、新聞などの在来型メディアを中心とした読者層により深いインテリジェンスを届けることを意図したものであり、大きな効果があったと考える。

動画メディアの需要層に対する機動的な発信

第二に、国際情勢の展開に合わせた動画発信を心がけた。ロシアと北朝鮮の「包括的戦略パートナーシップ」条約締結やウクライナに対する中距離弾道ミサイル攻撃など国民の大きな関心を呼ぶ出来事については事態発生から間髪を入れずに専門家による動画発信を行ったことで1万再生以上の反響があった。さらに米国大統領選に際してはその選挙制度を動画で解説したり、過去の政治的事件を当時の写真を使って解説するなど、動画メディアを主な情報源とする若者層に正しい国際情勢理解を提供することができた。これらの取り組みは、動画や音声での機動的な発信を活発に行う欧米シンクタンクの取り組みを参考にしたものである。動画を掲載している ROLES の YouTube チャンネル「ROLES Channel」の登録者数も順調に増加し、本報告書の作成時点で10000人と、日本のシンクタンクとしては有数の規模となった（これを上回るのは地経学研究所のみ）。

衛星画像を用いた事実発掘型の発信

第三に、衛星画像を用いた短いコメンタリー「ROLES SAT ANALYSIS」シリーズの発信が第2年度目においても活発に行われた。南シナ海における中国の海洋進出の実態やロシアの核実験場における

活動など、通常の報道や学術的発信が始まる前の事態を日本語・英語で発信することにより、我が国の外交・安全保障に直結する問題をいち早く発掘して発信し、国内外に問題提起するという機能を果たすことができた。この種の取り組みは欧米の大手シンクタンクの一部が実施しているものの、衛星画像の判読には一定の知見が必要であり、国際的にもまだ例は多くない。日本国内では ROLES の他に笹川平和財団が実施している程度である。それだけに、国内でも海外でも大きな注目を集めることになったものとする（海外からの注目については後述）。

「若者の近くから語りかける」アプローチの定期化

第四に、ROLES の発信の大きな柱である「若者の近くから語りかけるアプローチ」の一環として、学生団体と協力して第1年度目に実施した「わかもの政策研究会」を定例化し、第2年度目12月その第1回を実施した。安全保障に対して平素から大きな関心を持っていない層に対しても訴求することが期待されるため、第3年度目においても引き続き実施予定である（第2回は2025年4月に実施）。

② 発信の高頻度化と更なる需要層の掘り起こしの必要性

すでに述べたように、動画メディアの発信頻度はさらに高める必要がある。定期的な動画発信により、動画メディア空間に溢れる不正確な情報に対抗していく場をさらに発展させていかねばならない。そのためには、YouTube のチャンネル登録者数をさらに増やすとともに、それ以外の動画メディアでの発信によって新たな需要層を掘り起こすことが必要となろう。

- 補助事業者・研究者個人によるインターネット、SNS 等による広報やセミナー・シンポジウムの実施・参加等を通じ、日本の主張・視点の国際社会への発信が機動的・タイムリーかつ積極的になされたか。その結果として国際世論の形成に参画することができたか。

(※活動内容のみではなく、どのような発信が、どのように国際世論の形成への参画につながったかを総括的に記載すること。)

① 活発なイベントの実施を通じた発信

外国マスコミでの発信

第2年度目の大きな成果として、ROLES やそのメンバーが海外メディアからの認知を大きく高めたことが挙げられる。アンマンでの「日本・中東戦略対話」や、東京での UAE の Trends との共催国際会議のアラビア語紙での大々的な報道はその代表である。ただしこれらの、研究者個人が従来から構築していた国際的な関係に依拠した事業を超えて、シンクタンクとしての ROLES は、設立から日も浅く、認知度は必ずしも高くなかった。しかしここにおいても第2年度目に大きな発展があり、特に衛星画像分析の成果が ROLES の認知度向上を後押ししたとの手応えを強く得ている。例えばロシアの北

極圏に中国の軍用機が初展開したことを明らかにした ROLES SAT ANALYSIS 第 9 号については『NEW YORK TIMES』や『SOUTH CHINA MORNING POST』といった海外大手紙からの取材依頼があり、後者に関しては ROLES の名前入りで実際に記事化された。新しい研究手法を用い、なおかつ政策的意義のある研究を行うことの効果であると思われ、今後の活動の一つの指針としていきたい。

台湾、モンゴル、エストニアでのセミナー・ラウンドテーブル実施

第 2 年度目には、台湾、モンゴル、エストニアにおいてセミナーやラウンドテーブルを実施した。これらは日本の地域研究者（欧州、中東、ロシア、中国等）を中国・ロシアといったユーラシア大国の隣接国に派遣するとの意図の下に行われたものであり、現地では日本の知見に関する大きな関心が寄せられた。台湾では台湾師範大学や国防大学の専門家を交えた議論が行われ、以下で述べる東シナ海対話フォーラムの開催に繋がった。モンゴルでは北東アジア安全保障戦略研究所（MINASS）やモンゴル国立大学等、当地の主要な外交・安全保障戦略シンクタンク・学術機関との意見交換やワークショップが実施され、これが MINASS のドルジスレン所長の ROLES 訪問や、ROLES 代表団によるモンゴル国立大学への再訪問という形で協力関係の発展が急速に進んだ。エストニアでは「ユーラシア諸地域の内在論理」研究会座長の川島東大教授による台湾問題についてのラウンドテーブルが実施されたが、これは第 1 年度目の ROLES 代表団による訪問によって実現したものであり、アジアの安全保障環境に関する同国の理解促進に本事業が大きく貢献しているものとする。2025 年 2 月にはエストニアの国立シンクタンク ICDS からライク所長が来日し、駐日エストニア大使や EU 日本代表部からも参加を得てワークショップを開催するなど、エストニアとの関係強化が着実に進んだ。同じく 2025 年 2 月にはウクライナからもシンクタンク NEC のヘトマンチューク所長らが来日してワークショップが行われた。

UAE のシンクタンクとのシンポジウム共催

一方、日本においては、アラブ首長国連邦（UAE）のシンクタンクである TRENDS との合同シンポジウム「持続的な安全保障とその先：人工知能（AI）の役割」を開催し、ROLES メンバーだけでなく東大の理系研究者も登壇した。国際的に注目を集める AI 技術の活用に踏み出した UAE に対して、日本の存在感を大きくアピールできたとする。UAE の最有力紙アル・イッティハードをメディア・パートナーとして大々的な報道をもたらした、それに依拠した多数の UAE メディアによる報道が行われ、東大先端研 ROLES が湾岸アラブ諸国で一躍注目を集めた。

国際ワークショップ「東シナ海対話フォーラム」の実施

「ユーラシア諸地域の内在論理」研究を中心として、「東シナ海対話フォーラム」を東大先端研内で開催した。台湾訪問の成果を生かして台湾から研究者を招いて実施したものであり、日本側からは研

究者とマスコミが多数参加して台湾海峡を巡る政治・外交・安全保障についての広範な議論を実施することができた。

② 機動的な英語発信の不足

研究者個人や ROLES としての英語による SNS 発信はさらに強化していく必要がある。後述するように、ROLES は英語版ウェブサイトを持ち、刊行物も英語化されているが、SNS における英語発信は行われていない。国際的に大きな注目を集める事態・事件に対して ROLES のインターネットアカウントが英語発信を行えば SNS 空間における言説の形成に大きく貢献すると思われ、今後の改善点とした

- 補助事業者・研究者個人によるインターネット、SNS 等による広報やセミナー・シンポジウムの実施・参加等を通じ、国民の外交・安全保障に関する理解増進に取り組んだか。また、その反響があったか。

(※活動内容のみではなく、どのような活動がどう国民の理解を増進したのか、どのような反響があったかを総括的に記載すること。)

① オンライン／オフラインでの複合的な発信による理解増進の取り組み

機動的な発信と SNS 発信の相乗効果

東大先端研 ROLES は X (旧 Twitter) を代表・副代表が外交・安全保障に関して広く世論に訴える媒体として先駆的に利用したことが注目され、それぞれ 7 万と 21 万のフォロワー数を維持しており、それらは東大先端研 ROLES の事業の広報や発信を側面から支えていることは事実だろう。しかし個人の発信力に頼る段階から、より組織的な発信を国内外に行う段階に移行を進めている。手始めに東大先端研 ROLES の公式 X アカウントを運用しており、まだ 4000 フォロワーを超えた程度で道のりは遠いものの、刊行物や動画の公開、イベントの実施などを逐一広報している。また、ROLES の常勤・非常勤・研究会メンバーの多くも X アカウントを持ち、個人の発信力を通して ROLES 公式アカウントのポストを広めることで、組織としての東大先端研 ROLES の認知の定着を図っている。

コメンテーターとしてのニュース解説

研究メンバーの中には新聞・ウェブメディアのコメンテーター制度（朝日新聞コメントプラス、日経 Think、NEWS PICKS）に参画してニュース解説の役割を担っている者が多い。古典的なマスメディア報道に対してより突っ込んだ背景情報を提供したり、場合にはよっては異なる見方を提供することにより、国民の理解増進に大きく貢献する活動である。

一般向けセミナー・シンポジウムの開催と活用

ROLES ではウクライナ戦争や中東での紛争に関連する多くの一般向けセミナーやシンポジウムを開催している。時事的な問題について対面で知見を提供し、併せてその模様を YouTube 上にアーカイブすることで、イベントに参加できない事情を抱えた人々にも発信が届くよう工夫している。さらに研究メンバーは地方での講演会や大学・高校の学園祭における出張講演も積極的に実施しており、大都市圏外の人々も知見提供の対象から取りこぼさないよう工夫している。また、「情報・認知領域の安全保障」研究会は社団法人 Code for Japan が開催した偽情報対策ハッカソン「Hack the Disinfo」に協力団体として参加し、実際に偽情報対策に取り組むウェブアプリ制作チームへの助言や表彰を行った。論ずるだけでなく、実際に手を動かして行動するという、ROLES ならではの取り組みであったと自負する。

若者が集まりやすい場所で発信する

「若者の近くで語りかけるアプローチ」は、オンラインとオフラインの双方で展開させた。1990 年代中盤以降生まれのいわゆる「Z 世代」が情報源として最も活用しているのは動画サイトを含む SNS であり、これに次ぐのがインターネットメディアとニュースアプリであるとの調査結果がある（PR タイムス「全国の Z 世代の高校生・大学生・社会人の男女 6953 人に聞いた「もっと知りたい、Z 世代。 ～情報・人との接し方とは～」」。こうした若者世代の情報消費行動を考えるなら、オンライン上で最も「若者の近く」と言えるのはこれまで述べてきた動画メディアや SNS ということになる。これまで述べてきた動画配信や SNS 発信はこうした意図の下の実施されている。一方、オフライン上では物理的に若者との距離を縮める必要があると考え、第 1 年度目の「わかもの政策研究会」は渋谷 109 のイベントスペースを使用した。第 2 年度目は同スペースが閉鎖されたため、東大が利用枠を持つ渋谷 QWS を使用して実施した。さらに東大先端研が毎年夏に高野山大学と連携している高野山会議の若者向けイベントが第 2 年度目に開催されたことを利用し、ROLES の研究メンバーが高校生と泊まりがけで交流するという取り組みも開始された。

② 発信力のさらなる強化に向けて

ROLES の X におけるフォロワー数は本報告書作成時点で 4488 人であり、国際問題研究所や地経学研究所といった他の国際シンクタンクより小さい（ただしフォロワー数は前回の報告時点から 400 人増であり、着実に増加している）。刊行物・動画発信の強化によって、より多くのフォロワーを獲得し、SNS 発信力の強化を図る必要がある。また、オフラインでの発信に関しては渋谷 QWS の利用枠が年間 1-2 回に限られていることから、全てを好立地で開催することが難しい。東大先端研の施設を利用するなどして、予算の範囲内で定期的に「わかもの政策研究会」を実施していくことが求められよ

う。第3年度目には首都圏外でも同様の取り組みを行うことを検討したい。
(外国シンクタンク・有識者等との連携、ネットワークを通じた国際世論の醸成への貢献) ● 研究過程における外国シンクタンク・有識者等（在日の有識者、外交官、外国メディア関係者を含む）との定期的な討論や共同研究等を通じ、諸外国の視点や海外シンクタンク・有識者等のネットワークを取り入れた調査研究や、日本の立場や見解に関する外国シンクタンク・有識者等による理解の増進に取り組んでいるか。 (※ 活動内容のみではなく、外国シンクタンク・有識者との連携がどれほど、どのように深められたかを総括的に記載すること。)
① ROLES としてのネットワーク、連携、国際世論情勢への参画の着実な拡大 国際的なシンクタンク・ネットワークの形成 第2年度目においては、国際的な連携の強化と国際世論情勢について多くの成果があった。まず挙げられるのはシンクタンク間の連携強化が進んだことである。前述したモンゴル・台湾・エストニアでのセミナー実施とその後の協力関係の深化及びヨルダン・アンマンの戦略研究センター（CSS）やUAEのTrendsとの国際会議の共催に加えて、ウクライナの研究機関及び世論調査機関と連携して「ウクライナの国内避難民（IDP）の移動の地理的パターンと社会統合に関するサーベイ調査」を行うことで実際の調査研究協力を開始することができた。一方、日本国内においては外交・安全保障に関する世論調査を実施して英語版報告書も発行し、日本国民の認識を幅広く海外でも認知してもらうための取り組みも実施した。 海外有力ジャーナルへの発信・国際学会発表を契機とする国際世論醸成への参画 小泉准教授による軍事専門ジャーナル「WAR ON THE ROCKS」への寄稿や石本特任研究員による「DIPLOMAT」への寄稿により、海外の有力な研究者や実務者に対して日本としての見方や考え方を直接伝えるチャンネルを開いた。これらを契機として、米国戦争研究所（ISW）所長や在京オランダ大使との面談やウクライナのヤルタ欧州戦略研究所（YES）への年次会合への参加招待など、国際世論の場にROLESが打って出る機会を着実に増加させることができた。海外メディアへの露出機会も増加し、「NEW YORK TIMES」などの欧米有力メディアに加えてアジアやバルカン諸国からも研究メンバーが取材を受けるようになっている。さらに「広域中央アジアの重畳化する安全保障環境」では現在、国際学術誌「Journal of Contemporary East Asia Studies（JCEAS）」での特集号掲載と、「International Council for Central and East European Studies（ICCEES）」（2025年ロンドン開催）でのパネル発表のための申請作業を進めている。これら研究発信は広域中央アジア研究会で実施する研究会合、海外調査、ウズベキスタンでの委託調査等の集大成となる予定で、実現すれば、国際世論醸成へのさらなる参画

が期待される。2025 年には小泉准教授らが国際政治学会（IPSA）での報告が予定されている。

② 第2年度目における成果のさらなる拡張に向けて

他方、現状においては、海外のシンクタンクやメディアへの露出が一部の研究メンバーに限られているという問題が残る。今後はなるべく多くの研究メンバーがシンクタンク・ネットワーク形成への参加や海外有力ジャーナルへの発信を行い、第2年度目で得られた成果をさらに拡大していくことが次年度における課題となろう。

- G7、安保理常任理事国以外の国のシンクタンクとの意見交換・セミナー実施を通じて、我が国の情勢認識及び外交施策に関する理解増進、並べに我が国にとり望ましい国際世論の醸成に取り組んでいるか。（※調査研究事業については本項目の記載は任意。）

① 「非・大国関係のハブとしての ROLES」の確立

ROLES を中心としたトラック2 関係の構築

これまで述べてきたとおり、ROLES の国際交流はいずれも G7 や安保理常任理事国以外の国々を対象として実施されてきた。いわゆる「大国」との関係構築は大手シンクタンクが手厚く行っていることに鑑み、ROLES としては「非・大国」に焦点を絞り、トラック2 協議・対話を行う関係の構築に努めてきた結果である。平素の研究者間の関係や在京大使館職員との意見交換等も含めて、ROLES は「非・大国関係のハブ」としての地位を確立しつつあるものと自己評価する。これらの国々における研究メンバーのメディア露出も着実に増加しており、我が国としての情勢認識及び外交施策に関する理解増進、並べに我が国にとり望ましい国際世論の醸成に大きく貢献する道筋をつけることができた。

知識のゲートウェイとしての役割

第2年度目の活動を通して、日本が持つ外交・安全保障についての知識やインテリジェンスは諸外国と比べて大きな広がりや厚みを持つという印象を強めた。欧米のいわゆる先進国との比較においてはアジアについての知見で日本は圧倒しており、これは中国が台頭する中で大きなアドバンテージとなろう。他方、アジア諸国においては、旧ソ連や中東地域の外交・安全保障を専門とする研究者がそう多くない、ということも本事業を実施する中で明らかになってきた。こうした国々に対しても、日本は知識とインテリジェンスのアドバンテージを持っている。日本は外交・安全保障に関する「知識のゲートウェイ」になりうるということであり、「非・大国」に焦点を当てる ROLES の立ち位置はその役割を果たす上で好適である。今後の ROLES の方向性を考える上で、以上の感触を得たことは大きな収穫であった。

② 「非・大国の人々に語りかけるアプローチ」の必要性

今後の課題は、「非・大国」のエリートのみならず、そうした国々の一般市民に日本としての声を届けていくことであろうと思われる。今後の国外イベントでは一般市民も招いての公開シンポジウムを行うことなどが一つの方向性として考えられよう。我が国の主権・領土に関わる問題や安全保障課題については海外メディアへの露出をさらに増加させていくことも求められると認識している。

(2) 補助事業の実施体制及び実施方法

- 若手、女性、地方在住研究者を積極的に登用しているか。若手研究者の育成（英語による発信力の強化を含む。）に取り組んでいるか。

① 多様な人材の発掘と育成

若手・地方在住者・女性の登用によるインクルーシブな研究体制の実現

前述のように、本事業で実施する研究会・研究プロジェクトにおいては、若手・地方在住者・女性を含めることを原則としている。具体的な数値は後述するが、研究テーマにそぐう適切な人材の中に若手・地方在住者・女性が存在しないとといったやむを得ない場合を除き、この原則は徹底して守られてきた。中でも若手の登用は ROLES の重要なアイデンティティである。エスタブリッシュされた人材のプールであるだけでなく、これからの世代を担う若手人材の発掘と登用がシンクタンクの重要な役割であるとの信念に基づくものであり、今後とも ROLES の活動の中核としていきたい。

若手研究者による英語発信力の強化

前述のとおり、第2年度目においては ROLES の専任・特任教員による有力海外ジャーナルへの英語発信が大きな成果を挙げた。これに加えて ROLES ではインターン学生に英語発信の機会を提供している。ROLES の教員の指導の下で学生たちがそれぞれの関心に従って調査研究を行い、ROLES コメンタリーとして発信するという枠組みであり、将来の研究者やグローバル人材を育成する取り組みとして期待される。

② 女性人材のさらなる登用の必要性

本事業に関与する研究メンバー内では、ジェンダー・バランスには大きな問題はないと考えている。しかし、ROLES の専任・特任教員に限ってみると女性が非常に少ないという状況が依然として解決されていない。人事上の問題と関係するため一挙に改善することは難しいとしても、今後の重要な取り組み項目として認識する必要がある。

- 複数の分科会や研究会がある場合、それらの間の有機的な連携が取れているか。単一の分科会・研究会のみの場合は、分散的な個人研究に留まらず、研究者間で連携して調査研究・対外発信が実施されているか。

① 研究会を横断した研究・発信態勢

研究会間の協力による研究の実施

第1年度目と同様、各研究会の実施に際しては他の研究会にも案内を出し、研究メンバーが様々な分科会にクロス出席できるよう配慮している。さらに第2年度目には前述した世論調査プロジェクトが発足しているが、これも事業や研究会を横断して結成・実施されたものであった。

複数研究会の合同での対外発信

第2年度目に国内外で実施されたセミナー・シンポジウムはいずれも研究会の枠を超えて合同で実施されたものである。外国の研究者等を招いて実施している非公開ラウンドテーブル「RCAST SECURITY SEMINAR」も同様であり、インプットだけでなくアウトプットについても研究会間の連携とシナジー効果を意識するよう努めている。

事業を横断した「遊軍」派遣制度

ROLES が実施している各種の事業間で予算を拠出し合い、研究メンバーや研究メンバーの推薦した人材を海外調査に派遣する「遊軍」制度を設けた。この制度を用いて国末特任教授や神戸学院大学の岡部教授、北海道大学の服部教授、『朝日新聞』の金成記者などが外交・安全保障上の関心が高まる地域に機動的に出張し、情報収集を行うことができた。また、これらの出張の成果は今後の学術的刊行物のための基礎とするだけでなく、まずは「出張報告」として速報的に公開することで、時事的な問題についての国民の理解を促進するよう努めた。

② 制度化による有機的な連携を目指して

第2年度目までにおける問題は、研究会間の連携が研究者同士の個人的な関係によるところが大きかった点であると思われる。第3年度目においてはこの点を改善するため、年に一度は研究会同士の合同研究会合を実施するなど、連携をより制度化することを考慮する。

- 外務省等の関係部局とのコミュニケーションを構築し、政策立案上のニーズを把握し、それを踏まえて効果的にアウトプット・政策提言を行ったか。

① 直接的なニーズ把握に基づく知見提供

ROLES メンバーによる外交・安全保障政策への貢献

ROLES の大きな特徴は、研究メンバーが平素から政府関係者との密接な関係を構築し、我が国に求

められる知見を直接的に把握しながら提供していくことが可能な点である。第2年度目においても、ROLESの研究メンバーが持つ知見を我が国の外交・安全保障政策に反映する機会を数多く持つことができた。一例としては、小泉准教授が自民党の国防議連においてロシアをめぐる軍事情勢についての講演を依頼された際、海底ケーブル保護の必要性やロシアによる重要海底インフラ攻撃能力向上の可能性を指摘したことは大きな反響を呼び、具体的な政策議論へとつながった。このほか、本事業の研究メンバーによる政府当局者との対話や政府向けブリーフィングは、多様かつ非常に突っ込んだ形で実施されてきた。

② より多様なインプット／アウトプット・チャンネルの構築

今後はさらに外務省や防衛省の当局との密接なチャンネルを構築し研究成果の提供を活発化・迅速化していく必要がある。経済安全保障を視野に入れるならば、経済産業省についても同様の関係性が求められよう。外交・安全保障を担う当局に対し、今後必要とされる知見提供や危機の警告を先回りして行えるようになることが理想的である。そのためには、ROLES自体の研究能力の向上はもちろん、政府当局からのインプット／政府当局へのアウトプットをより密に行うことが求められる。

- 補助事業者のホームページ上に、研究部門、研究者個人（研究実績、写真、連絡先等）の情報を充実させ、研究内容及び研究者の見える化に努めているか。

① ROLES 事業の見える化

ROLESのサイト上では、各事業及びそれらを構成する研究会全てについてのページを設けている。研究メンバーについても同様である。また、成果物を観光したりイベントの実施についての投稿を行う際には、それがどの事業（研究会）であり、誰が参加したのかを管理画面上で選択できるようになっており、選択結果は自動的に各ページに反映される仕組みである。自動化により、各事業の実施状況や成果物の著者を取りこぼしなく可視化することに注意を払っている。

② 人手によるより細かいフォロー

一方、個人のプロフィールや写真、過去の業績等については人手で入力するほかないが、従来、人手不足によって入力が追いつかない状況が続いてきた。第2年度目においては、インターンを動員して各研究メンバーのページを重点的に充実させたことで、以上の問題はかなり解消されたと考える。次の課題としては、英語版のプロフィールページの充実に取り組む必要があるだろう。

- 組織自体の外交・安全保障政策に関する政策提言能力及び国際発信力を強化し、国際的な議論の

先導に努めているか。（※実施状況のほか、発信がどう国際世論の先導につながったかを記載すること。）

① ROLES 自体の認知度を高める取り組み

パンフレットの制作

個別の事業や研究会だけでなく、組織としての ROLES の認知を図る取り組みを前年度から引き続いて実施した。その一つとして ROLES の紹介パンフレットを作成して訪問者や面談相手に配布してきたが、第 2 年度目には活動内容の拡充に合わせて新たなパンフレットの作成に着手した。同パンフレットは英語と日本語を併記し、外国からの訪問者が持ち帰って組織内で回覧してもらえるよう工夫している。また、ROLES が東大の一部局による公式のシンクタンクプロジェクトであることを利用して、東大先端研のウェブサイトや刊行物にもその名前や活動内容を掲載している。

ウェブサイトの改修

ROLES の運営するウェブサイトも、組織的発信の重要な手段である。そこで ROLES では毎年ウェブサイトの改修による高機能化を図っており、2024 年には日本語ページと英語ページをより効果的に連携するための大規模改修に着手してほぼ完了した。従来は両言語のコンテンツが混在するなど、非日本語話者には見づらい仕様であったものを改善することが目的である。

② 個人から組織へ

ROLES の研究メンバーによる国際的ネットワーク開拓の試みは、特に第 2 年度目において大きな成果を挙げた。今後の課題は、こうして得られたネットワークを ROLES としての知名度や発信力にいかにして繋げていくかであろう。一つの方法としては、それぞれのメンバーに ROLES 独自の名刺を配布し、海外のカウンターパートの面会時に所属組織の名刺と一緒に手渡してもらうことが考えられる。

「こんなプロジェクトに所属していて、こんなことをやっている」という話題が生まれる余地を生もうという目論見である。前述した英語版 X アカウントの開設も必要となろう。

- グローバルに活躍する若手人材を含む多様なシンクタンク人材の発掘・育成に意を用い、これら人材の国際的な発進力強化に取り組んでいるか。

① 若手人材の発掘・育成に関する方針と成果

若手人材を研究者として育てる取り組み

ROLES の若手人材発掘・育成は、当該人材を「研究者として育てる」という原則によって実施されている。若手人材をアシスタントや事務員として使うのではなく、あくまでも研究者として扱い、その能力を伸ばしていく方針ということである。実際、前事業及び本事業の第 2 年度目までに ROLES か

らは多様な研究人材が輩出されており、第2年度目には山口特任助教が東京国際大学准教授に着任して英語による国際教育プログラムを担当することとなった。他方、第2年度目には新たに2人の若手研究者が特任研究員として ROLES に着任するなど、若手人材のキャリアにおける選択肢として ROLES は着実に地位を固めてきた。このほか、前述のインターン生にも英語発信を積極的に志望する学生がおり、ROLES 側研究メンバーの指導の下で発信の準備を進めている。

実務人材の輩出

また、第2年度目においては、田中（祐）特任研究員が JICA ウクライナ支援室に着任したほか、ROLES インターン生が防衛省に入省した。第2年度目は、外交・安全保障の現場で活躍する人材を ROLES が排出し始めた契機となった。

企業人材の開発

企業の人材に ROLES での共同研究経験を積ませることにより、人材開発に貢献している。特に衛星画像分析プロジェクトには3名の企業社員が ROLES 連携研究員の資格を得て参加しているが、このうちの1名は若手の女性人材であり、これまで経験の少なかった英語での発信にも取り組んでいる最中である。

② 若手による国際発信へのテコ入れ

設立から日の浅い ROLES であるにも関わらず、若手人材を集めて研究に携わらせるという体制自体は比較的うまく機能していると考ええる。次なる課題は国際発信であろう。幸い、ROLES の国際交流は拡大傾向にあり、これらの機会を捉えて特任助教・特任研究員クラスの登壇や発言、海外でのイベントの開催・参加等をさらに促していきたい。これまで幾度か述べてきた定例ミーティング制度を用いて、事務負担などで若手が研究に専念できなくなる事態を避けることも効果があるだろう。もう一つの問題は、専任・特任教員の中における極端な女性比率の低さである。今後は若手女性人材の採用と、当該人材による国際発信の推進を真剣に検討していく。

（3）補助金の使用

補助金事業事務処理マニュアルに沿って事業が実施されているか。

① 本事業団体では大学執行部、研究室の研究部門、事務部門にて「補助金事業事務処理マニュアル」を共有し、マニュアルに従った執行がなされている。

②

3-1 事業の実施状況・成果

※以下のカテゴリーに沿って、具体的な実施状況（日時、場所、参加者/参加人数、テーマ、調査、議論や対外発信の概要、成果等）について記載すること。（分量自由）

1. 基礎的情報収集・調査研究

研究会・タスクフォースによる研究会合の実施概要

(1) 研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰結」

1) 第1回会合

【日時】2024年4月25日（木）14:00～15:30

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】10名

麻田雅文（岩手大学人文社会科学部准教授）

池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

合六強（二松学舎大学国際政治経済学部准教授）

田中祐真（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

長谷川雄之（防衛省防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室研究員）

原田大輔（独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構 エネルギー事業本部調査部調査課長）

東野篤子（筑波大学人文社会系教授）

山添博史（防衛省防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室長）

外務省・防衛省・経済産業省（JICA含む）・内閣府オブザーバー 43名

【概要】

以下の2名による研究報告を実施。

原田大輔「対露制裁に関する最新情勢と統計から読み解くその効果：制裁が実質実装された2023年総括とウクライナ戦争前の比較」

田中祐真「ウクライナ情勢ブリーフィング（2024年2月～4月）」

2) 第2回会合

【日時】2024年5月15日（水）13:00～14:30

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】12名

麻田雅文（岩手大学人文社会科学部准教授）

国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

合六強（二松学舎大学国際政治経済学部准教授）

田中祐真（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

長谷川雄之（防衛省防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室研究員）

服部倫卓（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）

浜由樹子（静岡県立大学国際関係学研究科准教授）

原田大輔（独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構 エネルギー事業本部調査部調査課長）

松尾豪（合同会社エネルギー経済社会研究所代表取締役）

山添博史（防衛省防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室長）

外務省・防衛省・経済産業省（JICA 含む）・内閣府オブザーバー 30名

【概要】

以下の2名による研究報告を実施

服部倫卓「『嵐の前の静けさ』のモルドバを訪問して」

田中祐真「ウクライナ情勢ブリーフィング（2024年4月－5月）」

3)第3回会合

【日時】2024年7月8日（月）10:00～11:30

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】10名

麻田雅文（岩手大学人文社会科学部准教授）

大串敦（慶應義塾大学法学部政治学科教授）

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

田中祐真（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

長谷川雄之（防衛省防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室研究員）

原田大輔（独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構 エネルギー事業本部調査部調査課長）

松尾豪（合同会社エネルギー経済社会研究所代表取締役）

松本佐保（日本大学国際関係学部国際教養学科教授）

山添博史（防衛省防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室長）

外務省・防衛省・経済産業省（JICA 含む）・内閣府オブザーバー 54 名

【概要】

以下の 2 名による研究報告を実施

松本佐保「ロシアの対ウクライナ戦争の宗教的背景：プーチンの聖戦とは」

田中祐真「ウクライナ情勢ブリーフィング（2024 年 5 月－6 月）」

4)第 4 回会合

【日時】2024 年 8 月 29 日（木）13:00～14:30

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】11 名

大串敦（慶應義塾大学法学部政治学科教授）

国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

合六強（二松学舎大学国際政治経済学部准教授）

田中祐真（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

長谷川雄之（防衛省防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室研究員）

浜由樹子（静岡県立大学国際関係学研究科准教授）

原田大輔（独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構 エネルギー事業本部調査部調査課長）

松寄英也（津田塾大学学芸学部国際関係学科准教授）

山添博史（防衛省防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室長）

外務省・防衛省・経済産業省（JICA 含む）・内閣府オブザーバー 31 名

【概要】

以下の研究報告を実施

長谷川雄之「ロシア国家官僚の現在」

5)第5回会合

【日時】2024年9月12日(木) 10:00~11:30

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】8名

大串敦(慶應義塾大学法学部政治学科教授)

小泉悠(東京大学先端科学技術研究センター准教授)

合六強(二松学舎大学国際政治経済学部准教授)

西山美久(東京大学先端科学技術研究センター特任助教)

長谷川雄之(防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室主任研究官)

服部倫卓(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

浜由樹子(静岡県立大学国際関係学研究科准教授)

山添博史(防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室長)

外務省・防衛省・経済産業省(JICA含む)・内閣府オブザーバー 32名

【概要】

以下の研究報告を実施

西山美久「プーチン政権の歴史政治」

6) 第6回会合

【日時】

2024年11月12日(火) 10:00~12:00

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】11名

小泉悠(東京大学先端科学技術研究センター准教授)

西山美久(東京大学先端科学技術研究センター特任助教)

麻田雅文(岩手大学 人文社会科学部准教授)

岡部芳彦(神戸学院大学 経済学部政治学科教授)

長谷川雄之(防衛省防衛研究所地域研究部研究員)

服部倫卓(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)

浜由樹子(静岡県立大学 国際関係学研究科准教授)

東野篤子（筑波大学 人文社会系教授）

保坂三四郎（エストニア国際防衛安全保障センター研究員）

松尾豪（合同会社エネルギー経済社会研究所代表取締役）

山添博史（防衛省防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室長）

外務省・防衛省・経済産業省（JICA 含む）・内閣府オブザーバー 43 名

【概要】

岡部芳彦 神戸学院大学経済学部教授「ポスト・ゼレンスキー：ウクライナ政局の展望」

保坂三四郎 エストニア国際防衛安全保障センター研究員「ロシア情報機関による対ウクライナ工作」

(2) 研究会「ユーラシア諸地域の内在論理」

1) 第 1 回会合

【日時】2024 年 5 月 17 日（金）16:00～17:30

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】12 名

川島真（東京大学大学院総合文化研究科教授）

青木まき（アジア経済研究所地域研究センター東南アジア I 研究グループグループ長代理）

家永真幸（東京女子大学現代教養学部教授）

伊藤和歌子（東京大学先端科学技術研究センターシニア・プログラム・コーディネーター）

岡本隆司（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

岡本正明（京都大学東南アジア地域研究研究所教授）

鈴木隆（大東文化大学東洋研究所教授）

田中周（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

松田康博（東京大学東洋文化研究所教授）

宮本悟（聖学院大学政治経済学部教授）

池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）

【概要】

各個人による昨年度の活動総括及び今年度の方針の確認を行なった。

2) 第 2 回会合（東アジア国際関係史研究会共催、公開）

【日時】 2024 年 7 月 4 日（木） 15:30～17:00

【場所】 東京大学駒場キャンパス 2 号館 306 室

【参加者／参加人数】 30 名

Thomas P. Barrett（ケンブリッジ大学ポストドクトラル研究員／ウルフソン・カレッジ・フェロー）

川島真（東京大学大学院総合文化研究科教授）

岡本隆司（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

伊藤和歌子（東京大学先端科学技術研究センターシニア・プログラム・コーディネーター）

小林弘幸（東京大学先端研学技術研究センター特任研究員）

東アジア国際関係史研究会メンバー

【概要】

Thomas P. Barrett 氏より「ビルマ併合後の朝貢使節派遣問題と清朝の「体面」」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

3) 打ち合わせ記録

【日時】 2024 年 7 月 28 日（日） 11:00～12:00

【形式】 対面（東京大学駒場キャンパス 2 号館）

【参加者／参加人数】 3 名

川島真（東京大学大学院 総合文化研究科・教授）

トーマス・バレット（ケンブリッジ大学ウルフソン・カレッジフェロー）

景旻（東京大学大学院総合文化研究科研究生）

【概要】

ケンブリッジ大学における国際会議について

2023 年度に東京大学で実施した中国の伝統的な統治体制、外交体制についての第二回会議をケンブリッジ大学で実施。その内容については、現代中国の対外関係や世界秩序理念を念頭に置きつつ、清王朝期だけでなく中華民国期も視野に入れた討議を行う予定。この会議は「ユーラシア諸地域の内在論理」研究班の活動の一環であることを意識し、この研究班のメンバーを中心に人選を行い、必要に応じてメンバーを補充する。バレット博士との協議では、ケンブリッジ大学側の参加者などについて伺い、より適切なプログラムにするための調整や、経費負担の分担などについて協議を行った。

4) 第 3 回会合

【日時】 2024 年 9 月 5 日（木） 10:00～12:00

【形式】 Zoom

【参加者／参加人数】15 名

川島真（東京大学大学院総合文化研究科教授）

青木まき（アジア経済研究所地域研究センター東南アジア I 研究グループグループ長代理）

家永真幸（東京女子大学現代教養学部教授）

伊藤和歌子（東京大学先端科学技術研究センターシニア・プログラム・コーディネーター）

岡本隆司（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

岡本正明（京都大学東南アジア地域研究所教授）

日下渉（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）

鈴木絢女（立教大学大学院法学研究科教授）

鈴木隆（大東文化大学東洋研究所教授）

田中周（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

中西嘉宏（京都大学大学院アジア・アフリカ研究研究科准教授）

西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

宮本悟（聖学院大学政治経済学部教授）

山口信治（防衛研究所地域研究部主任研究官）

小林弘幸（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

外務省オブザーバー 16 名

【概要】

宮本悟委員より「北朝鮮における自主と独立とは何か」、山口信治委員より「中国の内政干渉原則とその変容」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

5)第4回会合

【日時】2024 年 9 月 27 日（金）10:00～12:00

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】17 名

川島真（東京大学大学院総合文化研究科教授）

青木まき（アジア経済研究所地域研究センター東南アジア I 研究グループグループ長代理）

家永真幸（東京女子大学現代教養学部教授）

伊藤和歌子（東京大学先端科学技術研究センターシニア・プログラム・コーディネーター）

岡本隆司（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

岡本正明（京都大学東南アジア地域研究所教授）

日下渉（東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授）
小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）
鈴木絢女（立教大学大学院法学研究科教授）
鈴木隆（大東文化大学東洋研究所教授）
田中周（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）
中西嘉宏（京都大学大学院アジア・アフリカ研究研究科准教授）
西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）
松田康博（東京大学東洋文化研究所教授）
宮本悟（聖学院大学政治経済学部教授）
山口信治（防衛研究所地域研究部主任研究官）
小林弘幸（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）
外務省オブザーバー 13 名

【概要】

岡本正明委員より「米中対立下のデジタル主権の可能性：インドネシア」、小泉悠委員より「衛星画像で読む極東ロシアの軍事態勢」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

6) 第 5 回会合

【日時】2024 年 10 月 5 日（土）10:00～12:00

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】14 名

川島真（東京大学大学院 総合文化研究科教授）
青木まき（アジア経済研究所地域研究センター研究グループ長代理）
家永真幸（東京女子大学 現代教養学部教授）
岡本隆司（早稲田大学教育・総合科学学術院教育学部教授）
岡本正明（京都大学 東南アジア地域研究研究所教授）
日下渉（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院教授）
鈴木絢女（立教大学大学院法学研究科教授）
鈴木隆（大東文化大学 東洋研究所教授）
松田康博（東京大学 東洋文化研究所教授）
宮本悟（聖学院大学 政治経済学部教授）
山口信治（防衛研究所 地域研究部 中国研究室主任研究官）

伊藤和歌子（東京大学先端科学技術研究センターシニアプログラム・コーディネーター）

西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

小林弘幸（東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員）

外務省オブザーバー 13 名

【概要】

松田康博委員より「悪化する中国・フィリピン関係」、田中周委員より「建国初期新疆における中国共産党のアイデンティティ形成の試み」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

7) 第 6 回会合

【日時】2024 年 11 月 5 日（火）10:00～12:00

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】13 名

川島真（東京大学大学院 総合文化研究科教授）

青木まき（アジア経済研究所地域研究センター研究グループ長代理）

家永真幸（東京女子大学 現代教養学部教授）

岡本隆司（早稲田大学教育・総合科学学術院教育学部教授）

岡本正明（京都大学 東南アジア地域研究研究所教授）

日下渉（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院教授）

鈴木隆（大東文化大学 東洋研究所教授）

松田康博（東京大学 東洋文化研究所教授）

宮本悟（聖学院大学 政治経済学部教授）

山口信治（防衛研究所 地域研究部 中国研究室主任研究官）

伊藤和歌子（東京大学先端科学技術研究センターシニアプログラム・コーディネーター）

田中周（東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員）

小林弘幸（東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員）

外務省等オブザーバー 11 名

【概要】

鈴木絢女委員より「マレーシアの世界認識地域研究的手法で接近する」、西山美久委員より「独ソ戦という「共通の記憶」：ロシアによる一体感の演出」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

8) 第7回会合

【日時】2024年12月20日(金) 10:00～12:00

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】14名

川島真(東京大学大学院 総合文化研究科教授)

青木まき(アジア経済研究所地域研究センター研究グループ長代理)

家永真幸(東京女子大学 現代教養学部教授)

岡本隆司(早稲田大学教育・総合科学学術院教育学部教授)

岡本正明(京都大学 東南アジア地域研究研究所教授)

日下渉(東京外国語大学大学院 総合国際学研究院教授)

小泉悠(東京大学先端科学技術研究センター准教授)

鈴木隆(大東文化大学 東洋研究所教授)

宮本悟(聖学院大学 政治経済学部教授)

山口信治(防衛研究所 地域研究部 中国研究室主任研究官)

伊藤和歌子(東京大学先端科学技術研究センターシニアプログラム・コーディネーター)

西山美久(東京大学先端科学技術研究センター特任助教)

田中周(東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員)

小林弘幸(東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員)

外務省等オブザーバー 11名

【概要】

鈴木隆委員より「習近平の台湾・沖縄認識の「原型」と中国の対沖縄統一戦線工作」、中西委員

より「国際規範・制度によるミャンマー包囲網とその限界」と題する報告があった後、質疑応答が行われた。

9) 特別会合

【日時】2024年1月23日(木) 8:30～10:00

【場所】Zoom

【参加者／参加人数】14名

川島真(東京大学大学院 総合文化研究科教授)

青木まき(アジア経済研究所地域研究センター研究グループ長代理)

家永真幸（東京女子大学 現代教養学部教授）

岡本隆司（早稲田大学教育・総合科学学術院教育学部教授）

日下渉（東京外国語大学大学院 総合国際学研究院教授）

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

鈴木絢女（立教大学大学院法学研究科教授）

鈴木隆（大東文化大学 東洋研究所教授）

宮本悟（聖学院大学 政治経済学部教授）

伊藤和歌子（東京大学先端科学技術研究センターシニアプログラム・コーディネーター）

西山美久（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

田中周（東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員）

小林弘幸（東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員）

池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）

【概要】

プロジェクトの海外調査、シンポジウム等の実施報告が行われた。川島座長より「台北・金門への調査について」、青木委員より「東北タイへの調査について」、宮本委員より「モンゴル・ウランバートルへの調査について」鈴木隆委員「東シナ海フォーラムについて」という報告が行われた後、質疑応答が行われた。

（3）研究会「広域中央アジアの重畳化する安全保障環境」

1) 打ち合わせ記録

【日時】2024年5月17日（金）14:00～15:00

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】2名

稲垣文昭（秋田大学大学院国際資源学研究科教授）

田中周（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

分科会「広域中央アジアの重畳化する安全保障環境」の2024年度運営および最終年度成果に関する打ち合わせ

2) 第1回会合

【日時】2024年7月28日（日）14:00～16:00

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】委員 10 名、ほか外務省から 3 名

稲垣文昭（秋田大学大学院国際資源学研究科教授）

田中周（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

伊藤庄一（一般財団法人日本エネルギー経済研究所資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット
上級スペシャリスト）

加藤美保子（広島市立大学広島平和研究所講師）

齋藤竜太（ロシア NIS 貿易会ロシア NIS 経済研究所研究員）

周源（神戸大学大学院法学研究科研究助手）

スルトノフ ミルゾサイド（東洋大学国際学部教授）

田中 マリア（秋田大学大学院国際資源学研究科特任助教）

山口信治（防衛研究所地域研究部主任研究官）

渡邊三津子（文教大学国際学部准教授）

外務省オブザーバー 12 名

【概要】以下の 2 名の研究報告を実施

スルトノフ ミルゾサイド 東洋大学国際学部教授

“Economic Interdependence of CIS Countries and Russia”

田中 マリア 秋田大学大学院国際資源学研究科特任助教

“The Security Dimension of the BRI in Greater Central Asia: In Search of a Conceptual
Framework”

3) 第 2 回会合

【日時】2024 年 11 月 29 日（金）16:30～18:30

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】10 名

稲垣文昭（秋田大学大学院国際資源学研究科教授）

田中周（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

伊藤庄一（一般財団法人日本エネルギー経済研究所 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット
上級スペシャリスト）

加藤美保子（広島市立大学広島平和研究所講師）

齋藤竜太（ロシア NIS 貿易会ロシア NIS 経済研究所研究員）

周源（神戸大学大学院法学研究科研究助手）

スルトノフ ミルゾサイド（東洋大学国際学部教授）

田中マリア（秋田大学大学院国際資源学研究科特任助教）

山口信治（防衛研究所地域研究部主任研究官）

渡邊三津子（文教大学国際学部准教授）

外務省オブザーバー 12 名

【概要】以下の 2 名による報告を実施

周源「中国国営メディアは中央アジアをどう伝えてきたのか」

田中周「広域中央アジアにおける反テロ協力」

4) 第 3 回会合

【日時】2024 年 12 月 26 日（木）16:00～18:00

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】10 名

稲垣文昭（秋田大学大学院国際資源学研究科教授）

田中周（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

伊藤庄一（一般財団法人日本エネルギー経済研究所 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット
上級スペシャリスト）

加藤美保子（広島市立大学広島平和研究所講師）

齋藤竜太（ロシア NIS 貿易会ロシア NIS 経済研究所研究員）

周源（神戸大学大学院法学研究科研究助手）

スルトノフ ミルゾサイド（東洋大学国際学部教授）

田中マリア（秋田大学大学院国際資源学研究科特任助教）

山口信治（防衛研究所地域研究部主任研究官）

渡邊三津子（文教大学国際学部准教授）

外務省オブザーバー 20 名

【概要】以下の 2 名による報告を実施

稲垣文昭「重畳化する中央アジアの国際関係と安全保障の姿」

齋藤竜太「中央アジアのロジスティクス多角化：「GCA」への拡大の試みと限界？」

5) 第 4 回会合

【日時】2025 年 2 月 26 日（木）10:00～12:00

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】11 名

稲垣文昭（秋田大学大学院国際資源学研究科教授）

田中周（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

伊藤庄一（一般財団法人日本エネルギー経済研究所 資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット
上級スペシャリスト）

加藤美保子（広島市立大学広島平和研究所講師）

周源（神戸大学大学院法学研究科研究助手）

スルトノフ ミルゾサイド（東洋大学国際学部教授）

田中マリア（秋田大学大学院国際資源学研究科特任助教）

山口信治（防衛研究所地域研究部主任研究官）

渡邊三津子（文教大学国際学部准教授）

Assel G. BITABAR（Teaching Professor; International School of Economics, Maqsut
Narikbayev University）

Srikanth THALIYAKKATTIL（Independent Scholar）

外務省オブザーバー 7 名

【概要】以下の2名による報告（コメンテーター2名）を実施

Assel G. BITABAR

“Multivectorism in Action: Kazakhstan’s Foreign Policy post-February 2022”

（コメンテーター：加藤美保子）

Srikanth THALIYAKKATTIL

“India's Role in Addressing Central Asia's Dilemmas Amid Chinese, Russian, and Islamic
Extremist Expansionism”

（コメンテーター：田中マリア）

（4）研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」

本研究会は、多くの国際会議を通じて情報収集を実施。以下、すべて「3. 外国シンクタンク・有識者等との連携ネットワークを通じた国際世論の醸成への貢献（若手人材の参画を含む）」、「4. 国際的な議論を先導するシンポジウムの開催」にも再掲。

- 1）RCAST Security Workshop "War in Gaza and its Repercussions on Security Dynamics in the Middle East"の開催

【日時】 2024 年 4 月 17 日

【場所】 先端研 3 号館 M2F セミナー室

【参加者／参加人数】 20 名

池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）

Sayed Ghoneim（MG (Ret.), Chairman of IGSDA）

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

Ahmed Adel Abdelaal（Assistant Researcher of IGSDA）

Ahmed Magdy Megaly（Assistant Researcher of IGSDA）

Rozann Ghoneim（Intern at IGSDA）

【URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20240417en>

2) 国際セミナー「コンスタンチノーブル会議（1876）と近代日本外交の黎明」

【日時】 2024 年 4 月 17 日

【場所】 3 号館南棟 1 階・ENEOS ホール

【参加者／参加人数】 24 名

渡邊英徳（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）

平澤彰悟（東京大学大学院情報学環修了）

池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）

コルクット・ギュンゲン（駐日トルコ共和国大使）

エテム・エルデム（ボアジチ大学教授）

ジラルデッリ青木美由紀（イスタンブール工科大学）

瀧井一博（国際日本文化研究センター教授）

【URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20240422>

3) 日本・中東戦略対話

※研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」、「国際理念と秩序の潮流」研究会「紛争解決の理論と実践」との合同事業

【日時】 2024 年 5 月 12、13 日

【場所】 ヨルダン大学戦略研究センター（CSS）

【参加者／参加人数】 180 名

池内恵(ROLES 代表)

ザイド・イヤダト CSS 所長他

【概要】

ROLES とヨルダン大学戦略研究センター（CSS）共催。両国に加え、エジプト、カタール、アラブ首長国連邦（UAE）、トルコ、パレスチナ、モーリタニアなど中東アフリカの各国各地域から、欧米から、国連や国際機関からも、多数の研究者や政治家、ビジネス関係者、国際機関スタッフや学生ら各界の多数が参加し、ガザ情勢や中東政治の今後、経済協力や投資の可能性、地域の将来像などについて話し合った。

【参照 URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/news/20241129>
<https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/publication/20240701>

4) 国際セミナー「中東王室の外交儀礼と日本：外交贈答品とその展示空間」

※「国際理念と秩序の潮流」研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」との合同事業

【日時】 2024 年 6 月 5 日

【場所】 東京大学先端科学技術研究センター・3 号館南棟 1 階

【参加者／参加人数】 34 名

池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）

アッバス・ヒルミ氏

ジラルデッリ青木美由紀（イスタンブール工科大学・建築学部・准教授補）

日高薫（国立歴史民俗博物館研究部／情報資料研究系・教授）

岡本隆志（独立行政法人国立文化財機構・皇居三の丸尚蔵館学芸部・展示・普及課・主任研究員）

【URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20240605>

5) 東大駒場リサーチキャンパス公開 2024「激動する中東情勢：ガザ紛争の後に来るものは何か？」

【日時】 2024 年 6 月 8 日

【場所】 東京大学駒場Ⅱキャンパス 3 号館南棟 ENEOS ホール

【参加者／参加人数】 231 名

池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）

国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）

ギブール・ドラモット（フランス国立東洋言語文化学院（INALCO）教授・東京大学先端科学技術研究センター客員上級研究員）

【URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20240608>

6) 国際会議「持続的な安全保障とその先：人工知能（AI）の役割」

※研究会「先端科学技術と安全保障」、「国際理念と秩序の潮流」研究会「紛争解決の理論と実践」、「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」研究会「言説空間分析の文理横断的方法と応用」との合同事業

【日時】 2024 年 9 月 18 日、19 日

【場所】 東京大学駒場Ⅱキャンパス 3 号館南棟 ENEOS ホール

【参加者／参加人数】 130 名（18 日）、109 名（19 日）

ファーティマ・アル・ヤンマーヒー（TRENDS Research & Advisory 戦略パートナーシップ専門員）、杉山正和（東京大学先端科学技術研究センター所長）、ムハンマド・アブドゥラー・アル・アリー（UAE・TRENDS Research & Advisory 最高経営責任者）、相原博昭（東京大学理事・副学長）、シハーブ・アハマド・アル・ファヒーム（アラブ首長国連邦・駐日大使）、松尾剛彦（経済産業省・経済産業審議官）（ビデオ・メッセージ）、三宅浩史（外務省・中東アフリカ局参事官）、オマル・スルターン・アル・ウラマー（アラブ首長国連邦 AI・デジタル経済・遠隔勤務担当国務相）、ファイサル・アル・バンナーイー（アラブ首長国連邦・先端技術調査評議会事務局長）、河野龍興（東京大学先端科学技術研究センター教授・附属エネルギー国際安全保障機構・機構長）、原田達也（東京大学先端科学技術研究センター教授）、カイス・ハンマーミー（イスラーム世界教育・科学・文化機関（ICESCO）戦略予見・AI センター長）、ムハンマド・スレイマーン（米国・中東研究所（MEI）戦略技術・サイバーセキュリティー部門長）、アワド・アル・ブレイキー（UAE・TRENDS Research & Advisory 主任研究員・グローバル部門長）、杉山将（東京大学大学院新領域創成科学研究科・複雑理工学専攻教授/理化学研究所・革新知能統合研究センター長）、ビラル・サアブ（UAE・TRENDS Research & Advisory 米国・中東関係部長）、矢入健久（東京大学先端科学技術研究センター教授）、プレスラフ・ナコフ（UAE・ムハンマド・ビン・ザーイド人工知能大学教授）、ルイジ・マルティーノ（UAE・ハリーファ大学サイバーセキュリティー・アカデミー所長）、保坂修司（日本エネルギー経済研究所・中東研究センター研究顧問）、江崎浩（東京大学大学院・情報理工学系研究科教授）、ムーサー・アル・マル

ズーキー（UAE・TRENDS リサーチ & アドバイザリー株式会社・経済研究室長）、近藤重人（日本エネルギー経済研究所・中東研究センター主任研究員）、アブドゥッラー・アル・アッバーシー（バーレーン戦略国際エネルギー研究センター（Derasat）エネルギー・環境プログラム長）ほか

【概要 URL】 <https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20240918>

(5) 研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」

1) 第 1 回会合

【日時】 2024 年 4 月 25 日（木）10:00～12:00

【形式】 ハイブリッド

【参加者／参加人数】 8 名

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

田中祐真（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

山口亮（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）

北原大介（NEC/JEOSS）

大和純（NEC/JEOSS） 井上智太郎（共同通信社外信部副部長）

古川勝久（自営業コンサルタント・著述業）

三浦壮一郎（サイバーディフェンス研究所 OSINT アナリスト）

上船開法（KPMG コンサルティングコンサルタント）

【概要】

（1）SAR 撮像結果レビュー（多時期の変化、注目地点の様子等）

1) 地点 A（新義州市@パス 137）

2) 地点 B（泰川郡@パス 27）

3) 地点 C（新浦市@パス 32）

4) 地点 D（羅先特別市@パス 26）

（2）ROLES SAT ANALYSIS 執筆に関するご相談

2) 第 2 回会合

【日時】 2024 年 6 月 27 日（木）9:30～11:30

【形式】 ハイブリッド（対面@4 号館 665 及び Zoom）

【参加者／参加人数】10 名

山口亮（東京大学先端科学技術研究センター特任助教）
井上智太郎（共同通信社外信部副部長）
上船開法（KPMG コンサルティングコンサルタント）
三浦壮一郎（サイバーディフェンス研究所 OSINT アナリスト）
小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）
古川勝久（東京大学先端科学技術研究センター連携研究員）
北原大介（東京大学先端科学技術研究センター連携研究員、JEOSS/NEC）
大和純（東京大学先端科学技術研究センター連携研究員、JEOSS/NEC）
石本凌也（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）
田中祐真（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

- （１）SAR 画像レビュー（４地点）
- （２）その他

3) 第 3 回会合

【日時】2024 年 10 月 23 日（水）14:00～16:00

【形式】ハイブリッド

【参加者／参加人数】10 名

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）
山口亮（東京国際大学 国際戦略研究所准教授）
北原大介（NEC/JEOSS）
大和純（NEC/JEOSS）
佐藤杏実（NEC ネットエスアイ株式会社）
小原凡司（笹川平和財団安全保障研究グループ上席フェロー）
井上智太郎（共同通信社外信部副部長）
古川勝久（自営業コンサルタント・著述業）
上船開法（KPMG コンサルティングコンサルタント）
石本凌也（東京大学 先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

新浦・馬養島 海軍基地を中心に SAR 撮影結果レビュー

- 1.地点 A（新義州市@パス 137）
- 2.地点 B（寧辺@パス 27）
- 3.地点 C（新浦市@パス 32）
- 4.地点 D（羅先特別市@パス 26）

4) 第 4 回会合

【日時】 2024 年 12 月 23 日（月） 14:00～16:00

【形式】 ハイブリッド

【参加者／参加人数】 10 名

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

山口亮（東京国際大学 国際戦略研究所准教授）

北原大介（NEC/JEOSS）

大和純（NEC/JEOSS）

佐藤杏実（NEC ネットエスアイ株式会社）

小原凡司（笹川平和財団安全保障研究グループ上席フェロー）

井上智太郎（共同通信社外信部副部長）

古川勝久（自営業コンサルタント・著述業）

上船開法（KPMG コンサルティングコンサルタント）

指原佑佳（東京科学大学修士課程）

【概要】

前回までの振り返りを行った上で、以下の状況について分析。

- 1.地点 A（新義州市@パス 137）
- 2.地点 B（寧辺@パス 27）
- 3.地点 C（新浦市@パス 32）
- 4.地点 D（羅先特別市@パス 26）
- 5.地点 E（豆満江@パス 25）

5) 第 5 回会合

【日時】 2025 年 3 月 12 日（月） 14:00～17:00

【形式】 ハイブリッド

【参加者／参加人数】 10 名

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

山口亮（東京国際大学 国際戦略研究所准教授）

北原大介（NEC/JEOSS）

大和純（NEC/JEOSS）

佐藤杏実（NEC ネットエスアイ株式会社）

小原凡司（笹川平和財団安全保障研究グループ上席フェロー）

井上智太郎（共同通信社外信部副部長）

古川勝久（自営業コンサルタント・著述業）

上船開法（KPMG コンサルティングコンサルタント）

石本凌也（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【概要】

前回までの振り返りを行った上で、以下の状況について分析。

1.地点 A（新義州市@パス 137）

2.地点 B（寧辺@パス 27）

3.地点 C（新浦市@パス 32）

4.地点 D（羅先特別市@パス 26）

5.地点 E（豆満江@パス 25）

その後、成果のまとめ方、来年度の方針について議論した。

（6）研究会「先端科学技術と安全保障」

1) 「ミャンマー人権状況 OSINT プロジェクト」第 1 回

【日時】2024 年 9 月 8 日（日）

【形式】Zoom

【参加者／参加人数】4 名

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

上船開法（KPMG コンサルティングコンサルタント）

指原佑佳（東京工業大学修士課程）

鈴木敦子（三井物産）

2) 「ミャンマー人権状況 OSINT プロジェクト」第 2 回

【日時】2024年9月23日（月）

【形式】Zoom

【出席者】

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）

上船開法（KPMG コンサルティングコンサルタント）

指原佑佳（東京工業大学修士課程）

鈴木敦子（三井物産）

3) 科学技術と安全保障ダイアログ 第1回「衛星画像で何がわかる？」

【日時】2025年2月5日（水）

【形式】東京大学先端科学技術研究センター13号館講堂（3階）

【出席者／参加者】21名

小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授／ROLES 副代表／DEEP DIVE 理事）

北原大介・大和純（日本地球観測衛星サービス：JEOSS）

吉川智美（Synspective）

指原佑佳（東京大学先端科学技術研究センター交流研究生／東京工業大学大学院修士課程）

牛島光一（筑波大学システム情報系准教授）

渡邊浩崇（大阪大学招へい教授）

【概要 URL】<https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20250205>

4) シンポジウム Beyond the Headline—データ・メディア・テクノロジーで読み解くガザ危機の深層—

【日時】2025年3月31日（月）15:30-20:00

【形式】情報学環福武ホール（東京大学本郷キャンパス）地下2階

【出席者／参加者】

渡邊 英徳（東京大学）

ハニーン・シェハーデ（ニューヨーク大学アブダビ校）

滋野井 公季（東京大学）

ターミル・アル＝ミシャール（アルジャジーラ）※オンライン参加

エゼッディーン・アブデルモウラー（アルジャジーラ研究所）※オンライン参加

ハニーン・シェハーデ（ニューヨーク大学アブダビ校）

池内 恵（東京大学）
 竹下 隆一郎（TBS）
 ラーミー・ズライク（ペイルート・アメリカン大学）
 井上 直樹（NHK）
 黄田 和宏（日経新聞）
 小泉 悠（東京大学）
 指原 佑佳（東京大学）
 ジャミーラ・ガッダール（アムステルダム大学）
 マリアム・カリーム（ノースウェスタン大学カタール校）
 鈴木 聡（NHK）
 梁田 真樹子（読売新聞）
 小松 尚平（東京大学）

国内外有識者・シンクタンクとのヒアリング／意見交換実績

本事業にかかる国内外有識者・シンクタンクへのヒアリング／意見交換実績は以下の通り。

【研究会主体】

実施日	実施者	対象者氏名（所属）	内容	実施研究会
2024/10/17	小泉悠	笹川平和財団	・研究会設立の目的 小泉悠・笹川平和財団上席フェロー ・委員自己紹介 ・論点提起：『中国のプルトニウム生産と核軍拡との関連』 小林祐喜研究員・笹川平和財団 ・意見交換	研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰結」

2024/11/19	西山美久	スヴィトラナ・コバルチューク事務局長 (ヤルタ・ヨーロッパ戦略会議) 岡部芳彦 (神戸学院大学教授、神戸学院大学松口正記念ウクライナ研究センター所長) 池内恵 (東京大学先端科学技術研究センター教授、ROLES 代表) 国末憲人 (東京大学先端科学技術研究センター特任教授) 小泉悠 (東京大学先端科学技術研究センター准教授) 合六強 (二松学舎大学准教授) 西山美久 (東京大学先端科学技術研究センター特任助教)	戦時下におけるウクライナの現状や、日本の支援など	研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰結」
2024/11/28	小泉悠	Tidten Dan (ドイツ大使館政務班)、Peter Gallmeister (同)	ロシアと中国の軍事協力、トランプ政権のインパクト等について	研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰結」
2024/11/28	小泉悠	Kimberly Kagan (Founder&President, Institute for Study of War) Frederick W. Kagan	ウクライナ戦争における新興テクノロジーの役割について	研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰結」

		(Senior Fellow, American Enterprise Institute) Satohiro Akimoto (Chairman&President, Sasakawa Peace Foundation USA)		
--	--	---	--	--

【ROLES メンバー主体】

実施日	実施者	対象者氏名（所属）	ヒアリング内容
2024/4/10	池内 恵	高橋美佐子（外務省中東アフリカ局参事官） 井土和志（外務省国際協力局国別開発協力第三課長〔アフリカ・中東・欧州担当〕） 遠山慶（JICA 中東・欧州部部长） 三井祐子（JICA 調達・派遣業務部部长） 立山良司（防衛大学校名誉教授） 池田明史（東洋英和女学院大学名誉教授） 江崎智絵（防衛大学校准教授） 篠田英朗（東京外国語大学教授） 小林和香子（元日本国際ボランティアセンターエルサレム事務所代表） 脇祐三（日本経済新聞客員編集委員）	平和構築研究会（篠田先生の紹介で報告） JICA 本部「ガザ復興支援検討会」第 6 回会合で報告（池内） 内容：ガザ紛争の現状と戦後の中東地域外交に関する分析と議論
2024/4/16	小泉 悠 山口 亮	Markus Schiller (ST Analytics GmbH/Stokholm International Peace Research Institute)	北朝鮮のミサイル開発、日本と欧州における抑止戦略等について意見交換

2024/4/16	池内 恵	石川武（防衛省防衛研究所長） 橋爪良友（防衛省防衛研究所副所長〔陸将補〕） 近藤俊明（防衛省防衛研究所教育部長〔一等海佐〕） 西野正巳（防衛省防衛研究所・地域研究部アジア・アフリカ研究室主任研究官） 吉田智聡（防衛省防衛研究所理論研究部・研究員）	防衛省防衛研究所にてガザ情勢と米・イスラエル関係についての意見交換
2024/4/16	池内 恵	Roman Grandjean（Regional Director, Middle East and North Africa, Centre for Humanitarian Dialogue〔HD Centre〕） Felix Tusa（Project Manager, North Africa, Centre for Humanitarian Dialogue〔HD Centre〕） 小林周（日本エネルギー経済研究所中東研究センター主任研究員） 篠田英朗（東京外国語大学教授） 吉崎知典（東京外国語大学教授）	平和構築研究会
2024/4/17	池内 恵	上野瑛（三菱商事株式会社・グローバル総括部 欧阿中東室 アシスタントマネージャー〔中東〕） 本田圭（在シリア日本国大使館専門調査員）	ガザ紛争とエジプト・シリア情勢について
2024/4/18	小泉 悠	Paul Fraioli (IISS)	ワークショップ参加 IISS, Tracking Nuclear Risk during Crises ベイズ推定を用いた核使用リスクの推定手法について

2024/5/6	国末 憲 人	カテリーナ・ピシコヴァ（イタリア国際政治研究所客員研究員）	ウクライナの政治情勢と復興状況について
2024/5/7	国末 憲 人	ダニエル・ショーンフラッグ氏（ベルリン高等研究所教授）	ウクライナの復興状況とドイツの支援について
2024/5/8	国末 憲 人	マーシャ・プリヴェン氏（ウクライナ人芸術家）	ウクライナ情勢、エストニア情勢について
2024/5/16	国末 憲 人	パスカル・ペリノー氏（パリ政治学院名誉教授）	フランスのポピュリズムと安全保障について
2024/5/17	国末 憲 人	マルク・エケル氏（フランス国際関係研究所副所長）	パレスチナ情勢、テロ問題について
2024/5/17	国末 憲 人	宋光祐（朝日新聞パリ支局長）	フランス政治情勢と安保政策について
2024/5/22	池内 恵	Awadh Al Breiki（Research Fellow & Chief Global Officer） Sumaya Al Hadhrami（国際会議担当）	東大先端研と TRENDS の協力関係について、年次大会の共催について
2024/5/31	池内 恵	武内宏樹（サザン・メソジスト（SMU）大学准教授）	大学内シンクタンクの運営手法について、東大先端研と SMU タワー・センターの協力について
2024/6/6	池内 恵	島谷弘幸（国立文化財機構理事長・皇居三の丸尚蔵館館長） 浅見龍介（国立文化財機構研究調整役） 岡本隆志（皇居三の丸尚蔵館学芸部・主任学芸員） 三島大暉（皇居三の丸尚蔵館学芸部・学芸員） ジラルデッリ青木美由紀（イスタンブール工科大学助教授） アッバスヒルミ氏	日本・エジプトの文化交流史、特に皇室・王室外交による文化接触・相互影響について

2024/6/10	池内 恵	Workne Gebeyehu (Executive Secretary of the Intergovernmental Authority on Development (IGAD): former Foreign Minister of Ethiopia) Simon Nyambura (Director, IGAD Centre of Excellence for Preventing and Countering Violent Extremism (ICEPCVE)) 池内 恵 (東京大学先端研教授) 篠田英朗 (東京外国語大学教授・東大先端研客員上級研究員)	日本のアフリカの角に対する政策について、東アフリカ・紅海情勢について
2024/6/20	小泉 悠	Oriana Skylar Mastro (スタンフォード大学助教)	北方領土の軍事的意味合い、中国の軍事力増強、日本の防衛政策等について
2024/6/28	国末 憲人	アラン・アンティル氏 (フランス国際関係研究所サハラ以南アフリカセンター長)	西アフリカ情勢、テロ問題について
2024/7/2	国末 憲人	ジル・グレサニ氏 (『グラン・コンチナ』誌代表)	イタリアとフランスのポピュリズム比較について
2024/7/2	国末 憲人	ブルーノ・ゴルニッシュ氏 (フランス国民戦線元副党首)	フランスの右翼活動について
2024/7/3	国末 憲人	横川友美子 (OECD 本部広報官)	ウクライナ復興情勢について
2024/7/4	国末 憲人	ティム・ベイル氏 (ロンドン大学クイーンメアリー教授) チャーリー・ブラウン (ジャーナリスト)	英国政治情勢について
2024/7/10	池内 恵	舟津龍一 (外務省中東アフリカ局・中東第二課長)	イスラエル、サウジ、U A E 情勢、サウジアラビアの戦略的コミュニケーション、対サウジアラビ

			ア外交の人的資源について
2024/8/19	国末 憲 人	ラヤ・アハジャリヤン氏（ナゴルノ・カラバフ難民、ステパナケルト第1学校元教師）	ナゴルノ・カラバフ情勢について
2024/8/20	国末 憲 人	カレン・ホヴァネシヤン氏（シシアン成人教育センター所長）	ナゴルノ・カラバフ難民の社会統合策について
2024/8/20	国末 憲 人	アニー・サルグシヤン（難民支援 NGO 主宰者）	ナゴルノ・カラバフ難民の社会統合策について
2024/8/20	国末 憲 人	ダヴィッド・ハコビヤン（行政支援 NGO 主宰者）	ナゴルノ・カラバフ難民の社会統合策について
2024/8/21	国末 憲 人	アルマン・アバニシヤン氏（ナゴルノ・カラバフ難民） ナリネ・アブラハムヤン氏（同）	ナゴルノ・カラバフ情勢について
2024/8/21	国末 憲 人	ハチャトゥール・アンドレアシヤン氏（メグリ市長）	ザンゲズール回廊について
2024/8/21	国末 憲 人	ニコラ・ペルノ氏（フランス人ビデオ作家、ジャーナリスト）	ザンゲズール回廊について
2024/8/21	国末 憲 人	シャハネ・ハチキヤン氏（地域振興 NGO 主宰者）	ザンゲズール回廊について
2024/8/23	国末 憲 人	アラム・ナバサディアン氏（ギャロップ・インターナショナル・エレバン事務所所長）	アルメニアの世論動向について
2024/8/24	国末 憲 人	クリスティン・バラヤン氏（ナゴルノ・カラバフ難民、難民支援 NGO 代表）	ナゴルノ・カラバフ難民の生活状況について
2024/8/26	国末 憲 人	ステパン・サファリヤン氏（元国民議会議員、アルメニア国際安全保障問題研究所所長）	アルメニアの安全保障状況について
2024/9/9	国末 憲 人	ゾヤ・クルニエヴァ氏（キーウ国立工科大学教授） オリハ・デミデンコ氏（同）	ウクライナの社会状況について

2024/10/7	国末 憲 人	アキール・カンパーニャ弁護士 北川剛史（ウクライナ支援室長） 水野光明（国際裁判対策室長） 萩原和（国際法課主査）	ウクライナでの戦争犯罪に関する 裁判の状況
2024/10/8	国末 憲 人	アキール・カンパーニャ弁護士 池内 恵（ROLES 代表） 古谷修一（早稲田大学法務研究科長） 遠藤乾（東大法学部教授）	ロシア軍の戦争犯罪への追求に関 する国際協力
2024/10/10	国末 憲 人	アキール・カンパーニャ弁護士 越智萌（立命館大学准教授） 大学院生	ロシア軍の戦争犯罪追及に関する 法的課題
2024/10/12	国末 憲 人	アキール・カンパーニャ弁護士 遠藤乾（東大教授） スラヴァ・マヴリチェヴ（ウクライナ公 共放送ハルキウ支局長）	ウクライナの戦況と今後の展望
2024/11/19	池内 恵	ナンジン・ドルジスレン所長（モンゴル 北東アジア安全保障戦略研究所、Dr. Nanjin Dorjsuren, Director of the Mongolian Institute of Northeast Asian Security and Strategy: MINASS） 川島真（東京大学大学院総合文化研究科 教授） 池内 恵（東京大学先端科学技術研究セ ンター教授）	日・モンゴル2トラック協議の枠 組み設定について。川島座長・ド ルジスレン所長との協力関係の中 で、BRICKS の拡大をめぐる国際 会議を 2024 年 6 月に東大先端研 で開催する点での仮合意・準備打 ち合わせ。研究会「安全保障協力 体制の構想」（岩間陽子座長）に よるモンゴルを軸とした「アジア 版 OSCE」構想との協力関係と独 自性について。
2024/12/20	池内 恵	越智萌（立命館大学国際関係学部准教 授）	ロシア・ウクライナ戦争および各 種紛争への国際刑事司法の適用の 理論と実態について

2025/2/9	池内 恵	遠藤峻（三菱総研・中東支部ジェネラル・マネジャー） 廣瀬明寛（三菱総研・中東支部マネージャー）	日・UAE のシンクタンク協力・国際会議共催の打ち合わせ・国際産学連携の枠組みの設定に関する打ち合わせ、在ドバイ・アブダビ日本企業中東拠点に向けた国際共同調査研究事業の共同提案に関する打ち合わせ
2025/2/12	池内 恵	森畑真悟（JICA ヨルダン事務所・所長） 中杉慎太郎（伊藤忠商事アンマン事務所・所長） 山口隆広（住友商事アンマン事務所・所長） 岡田英樹（豊田通商アンマン事務所・所長） 栗山謙司（豊田通商アンマン事務所・次期所長） 菊野成光（丸紅アンマン事務所・所長） 片山様（三井物産アンマン事務所・所長） 三井道隆（三菱商事アンマン事務所・所長） 山本様（日本大使館・経済班・国土交通省） 福井様（日本大使館・専門調査員）	ヨルダンにおける日本と中東の産官学連携の情報ネットワーク設立のための意見交換
2025/2/17	池内 恵	杉山正和（東京大学先端科学技術研究センター教授・所長） 中村尚（東京大学先端科学技術研究センター・教授） ジブ・ライヒ（ワイツマン科学研究所・	日本とイスラエルの文理融合・国際連携の連携事業の可能性について、外交・安全保障研究を大学において行うメリットとデメリットに関する検討・意見交換を行っ

		教授・副学長) アロン・ワインガルテン (ワイツマン科学研究所・事務担当副学長) レイチェル・バウマン (ワイツマン科学研究所・副学長室チーフ・オブ・スタッフ兼開発・広報担当) アディ・ザハビ (ワイツマン科学研究所・事務担当副学長室・チーフ・オブ・スタッフ) クリストファー・ホイットニー (ワイツマン科学研究所米国委員会・常務取締役・国際提携担当)	た。
2025/2/18	池内 恵 小泉 悠	小原凡司 (笹川平和財団安全保障研究グループ上席フェロー/一般社団法人 DEEP DIVE 代表理事) Alyona Getmanchuk (Director, New Europe Center, Kyiv, Ukraine) Leonid Litra, Senior Research Fellow, New Europe Center) Nataliya Butyrskaya (Associated Senior Fellow) Mykhailo Gonchar (Founder & President of the Centre for Global Studies <<Strategy XXI>>, and Editor-in-Chief of the Black Sea Security Journal)	ウクライナの対米関係、ウクライナの軍需産業、ウクライナの鉱物資源戦略、日本の対ウクライナ支援と世論、日本とウクライナのオープンソース情報分析での協力の可能性
2025/2/26	池内 恵	米田壮 (公益財団法人 公共政策調査会 理事長) 板橋功 (公益財団法人 公共政策調査会 理事・研究センター長)	中東の地域紛争が日本のセキュリティに及ぼす影響、イスラエルの安全保障と情報、米トランプ政権の中東政策について。

		坂明（デジタル庁 最高セキュリティ責任者）	
2025/2/26	池内 恵	中川正浩（弁護士 大樹生命株式会社顧問／東洋テック社外取締役） 出川展恒（NHK 解説委員）	ガザ情勢、シリア情勢の最新の動向と、米トランプ政権の中東政策について。
2025/2/26	池内 恵	広畑史朗（一般社団法人白珪社 理事） 坂田彰男（公益財団法人 公共政策調査会 総務部事業課長） 五十嵐邦雄（ホテルグランドアーク半蔵門総支配人）	中東の安全保障をめぐるセミナー・講演会・ワークショップの開催について
2025/3/6	池内 恵	渡邊英徳（東京大学） 滋野井公季（東京大学大学院情報学環・学際情報学府客員研究員）	データビジュアライゼーションの 新手法・技術について、特に 2D 映像の 3D 化技術の応用について。 4 月 2 日に東大先端研と共催する 予定のセミナーの企画打ち合わせ。 ペイルート・アメリカン大学 （AUB）との東大先端研・情報学 環との部局間協定の締結に向けて の打ち合わせ。カタール財団設立 のハマド・ビン・ハリーファ大学 Hamad Bin Khalifa University （HBKU）との提携の打ち合わせ。
2025/3/6	池内 恵	鳥海不二夫（東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻教授）	SNS 上の情報拡散の分析手法について。

2025/3/16	池内 恵	中野雅之（一般財団法人 安全保障貿易情報センター（CISTEC）理事 調査研究部長/日本安全保障貿易学会 理事・事務局長） 桃井元士（一般財団法人 安全保障貿易情報センター（CISTEC）調査研究部 主任研究員 事務局員） 則竹幹子（一般財団法人 安全保障貿易情報センター（CISTEC）国際輸出管理調査・協力部 兼 情報サービス・研修部 上席主任研究員） 高野順一（合同会社 日本輸出管理研究所 代表）	湾岸産油国とイラン・イスラエルをめぐる中東地域情勢について。
-----------	------	--	---------------------------------------

2. 機動的かつタイムリーな国内外への発信（インターネット等による広報、公開セミナーの開催を含む）

イベントのメディア掲載

・5月12-13日開催の「日本・中東戦略対話」が、ヨルダン最有力のアラビア語紙 al-Ghad 紙の5/13日の第2面に詳細に取り上げられたほか、以下のメディアでも取り上げられた。

أكاديميون: دعم الأردن كمركز إقليمي خطوة نحو تحقيق الاستقرار والسلام

عمان- الفد- أجمع دبلوماسيون وأكاديميون وفهراء على أن دعم الأردن كمركز إقليمي يمكن أن يكون خطوة مهمة نحو تحقيق الاستقرار والسلام في المنطقة بأكملها إذ إن الأردن لديه تاريخ طويل من الاستقرار النسبي في منطقة الشرق الأوسط، ويعد نموذجا للتسامح الديني والتعايش السلمي بين مختلف الثقافات والأديان. وأكدوا أن تعزيز الاقتصاد، بدعم تعزيز الاستقرار الاقتصادي في المنطقة، ما يقلل من التوترات وتعزيز الحوار البناء، فيما يمكن للأردن أن يؤدي دورا مهما في تعزيز التعاون الأممي في المنطقة، سواء عبر مشاركته في الجهود الدولية لمكافحة الإرهاب أو عبر كونه مركزا لتعزيز الحوار الثقافي بين مختلف الشعوب في المنطقة، بما يساهم في تعزيز التفاهم المتبادل وتقليل الاختلافات. جاء ذلك خلال افتتاح فعاليات الجلسة الأولى من مؤتمر الحوار الإسرائيلي بين اليابان والشرق الأوسط، الذي ينظمه مركز الدراسات الاستراتيجية في الجامعة الأردنية أمس، بالتعاون مع مركز بحوث العلوم المتقدمة والتكنولوجيا المتقدمة في جامعة طوكيو. وكعادته رئيس الجامعة الأردنية د. نادر عبيدات، أن القائمة تزداد في الأردن بشكل مضطرب، وبلا أدنى شك، في أن التعليم والبحث والابتكار والإبداع هي طريق التنمية الحقيقية والنمو الاقتصادي والتطور والاستدامة، وهذا لن يتحقق إلا عبر بحث علمي تطبيقي، رصين، غير التخصصات، وبشركات حقيقية مع القطاع الخاص والصناعات. وتابع، حيث تتطلع لأدمع، في اليابان للمساعدة على خلق بيئة جاذبة تحفز القدرة على الإبداع والبحث العلمي، وبالتالي، يكونوا قاطرين على إغناء الصناعة وأصحاب الأعمال بهذه الشركات. ووجه عبيدات الشكر للوكالة اليابانية للتعاون الدولي (إيكا) على ما قدمته للجامعة الأردنية، مبدية تطلعها لزيادة من هذه الشراكة معها في ظل التحولات المهمة التي تقوم بها الجامعة لتنمية الجانب الثقافي والعلمي في

日時	メディア名	記事名
2024/5/12	Ammon News	Japan-Middle East Strategic Dialogue Conference Kicks Off in Amman
2024/5/13	news.ju.edu.jo	The University of Jordan News Japan-Middle East Strategic Dialogue Conference...
2024/5/13	Jordan News	Japan-Middle East Strategic Dialogue Conference Kicks Off in Amman
2024/5/13	アラビア語紙 al-Ghad	أكاديميون: دعم الأردن كمركز إقليمي خطوة نحو تحقيق الاستقرار والسلام (2 面記事掲載)
2024/5/14	日本経済新聞	中東緊迫「日本に橋渡しの義務」 ヨルダンで識者らが戦略対話
2024/5/14	Arab News	アンマンでのイベントで注目される日本と中東の関係の未来

2024/5/19	パレスチナ紙アル＝ クドス	اليابان: غزة والشرق الوسط
2024/5/20	مركز الاتحاد للأخبار	العرب واليابان: نموذج الحداثة المحافظة
2024/5/23	إتتيهارد	العرب واليابان: نموذج الحداثة المحافظة

・また、9月18日、19日に開催した国際会議「持続的な安全保障とその先：人工知能（AI）の役割」について、主筆が開催挨拶にも立つ Aletihad 紙によって、会議前後に以下とおりに取り上げられた。

日時	記事名
2024/9/17	«تريندز» ينظم مؤتمره السنوي الدولي الرابع في اليابان
2024/9/19	خبراء: الذكاء الاصطناعي يقود مستقبل الأمن المستدام
2024/9/20	المؤتمر السنوي الدولي الرابع لـ«تريندز» يبحث الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي

・その他、上記会議に登壇したワシントンの中東研究所(MEI)の戦略技術・サイバーセキュリティ部門長のムハンマド・スレイマーン氏より、本会議への登壇を受け、Foreign Policy Research Institute ウェブサイトに10月17日付で「[Japan: America's Indispensable Ally in the 21st Century](#)」と題する論考が発表された。

・『ROLES SAT ANALYSIS No.9』での分析内容がサウスチャイナモーニングポストに引用された。
2024年8月2日「[Chinese Y-20 planes spotted at Russian airport on same day as joint patrol near Alaska](#)」

・動画配信「ROLES Cast」第14回「プーチンの訪朝と露朝『包括的戦略パートナーシップ』の意味と展望」が2024年9月5日付新潮社 Foresight ウェブサイトに掲載された。（研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰結」と、発展型総合事業「国際理念と秩序の潮流:日本の安全保障戦略の課題」研究会「インド太平洋の安全保障構想」の共同成果）

URL : <https://www.fsight.jp/articles/-/50857>

・12月2日～8日に実施した第2回徳之島ユースキャンプが、2024年11月27日付奄美群島南三島経

済新聞に「徳之島で『国際ユースキャンプ』 ボスニア・韓国・日本の学生が再び集結」 (<https://ami-minamisantou.keizai.biz/headline/556/>)、2024 年 12 月 11 日付南海日日新聞に「3 カ国の大学生と交流 戦争の記憶継承テーマに発表も 伊仙町」 (<https://www.nankainn.com/news/education/%EF%BC%93%E3%82%AB%E5%9B%BD%E3%81%AE%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E7%94%9F%E3%81%A8%E4%BA%A4%E6%B5%81%E3%80%80%E6%88%A6%E4%BA%89%E3%81%AE%E8%A8%98%E6%86%B6%E7%B6%99%E6%89%BF%E3%83%86%E3%83%BC%E3%83%9E%E3%81%AB>) と題する記事でとりあげられた。

ROLES ウェブサイトを通じた発信

本事業では、ROLES ウェブサイト (<https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/>) において、以下のような発信を行っている。

- 日本語版刊行物：「ROLES Commentary」「ROLES Report」
- 英語版刊行物：「ROLES INSIGHTS」
- ジャーナル（日英）：『ROLES Review』
- 日本語版時事解説動画シリーズ：「ROLES Cast」
- 英語版時事解説動画シリーズ：「ROLES Talk」
- そ の 他 の 動 画 ： YouTube チ ャ ン ネ ル 「 ROLES Channel 」 (<https://www.youtube.com/@ROLESChannel>) 登録者数 10,016 人
- 各種セミナー・シンポジウムの告知：「イベント」欄 (<https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/events>)
- その他のお知らせ：「ニュース」欄 (<https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/news>)

また、広報用資料として、ROLES パンフレットを改定した。

本事業にかかる発信実績は以下の通りである。

【ROLES Cast】

作成日	動画タイトル	視聴再生回数
2024/7/26	プーチンの訪朝と露朝「包括的戦略パートナーシップ」の意味と展望	12,718

2024/8/20	第 5 期プーチン政権始動：新内閣の顔ぶれと日露関係の今後	8,528
2024/11/26	ロシアによるウクライナへの中距離弾道ミサイル攻撃：欧州とアジアへの影響	28,868
2024/12/11	ROLESCast 第 17 回 韓国非常戒厳	6,913
2025/1/14	ROLESCast 第 18 回 内政不安に揺れるジョージア：その現状と今後の展望	9,273
2025/1/14	ROLESCast 第 19 回 知られざる未承認国家アブハジアと仮想通貨ブームの意外な関係：ジョージアとロシアの狭間で	5,195

【ROLES Channel】

作成日	動画タイトル	視聴再生回数
2024/5/23	SPF China Observer 対談「衛星画像を用いた中国の戦略核戦力増強の現状に関する分析」(youtube.com)	31072
2024/7/26	東大駒場リサーチキャンパス公開 2024 「激動する中東情勢: ガザ紛争の後に来るものは何か？」	5194
2024/7/31	シンポジウム「戦時下のウクライナで人々は何を見、感じているのか」	10078
2024/10/18	フォーラム「ウクライナでの戦争犯罪の責任を問う」	464

【ROLES Talk】

作成日	動画タイトル	視聴再生回数
2024/8/26	ROLES Talk ～写真で語る #1～	1005
2024/10/16	ROLES Talk ～写真で語る #2～	326

【ROLES Report／Commentary】

作成日	刊行物タイトル	研究会
2024/5/27	ROLES Commentary No.22 [Conference Papers] Kohei Toyoda "The Future of Energy Cooperation between Japan and the Middle East"	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」
2024/5/27	ROLES Commentary No.22 豊田耕平「日本・中東エネルギー協力の未来」	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」
2024/7/1	ヨルダンで開催された「日本・中東戦略対話」から	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」
2024/7/16	ROLES Commentary No.26 田中祐真「2022 年夏以降のウズベキスタ	研究会「ロシア・ウクライ

	ン内政の動き ―「改革者」の権威主義への回帰？―	ナ戦争の背景・展開・帰結」
2024/7/29	ROLES Commentary No.29 国末憲人「フランス総選挙の背景と安全保障環境」	「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」
2024/8/7	ROLES Commentary No.30 田中祐真「ジョージアでの「ロシア法」の採択と 2024 年議会選挙 ―世論調査から見る国民の姿勢―	研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰結」
2024/9/3	ROLES Commentary No.33 ハクティビストによる日本へのサイバー攻撃とその対策 ～地政学的緊張の高まりを背景として	研究会「先端科学技術と安全保障」
2024/9/28	ROLES REPORT No.31 内田州「ロシアによるウクライナ侵攻を紐解くためのジョージア情勢：なぜ、ウクライナ的朋友であるジョージアが親ロシア的外交方針を取っているのか？」	研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰結」
2024/12/7	国際ワークショップ「東シナ海対話フォーラム」の意義と展望 ―東京・沖縄・台湾のさらなる相互理解・協力のために―	研究会「ユーラシア諸地域の内在論理」
2025/3/17	ROLES REPORT No. 34 Maria TANAKA "Insights from the 7th Asia Future Conference 'Revitalization and Reconnection'"	研究会「広域中央アジアの重畳化する安全保障環境」
2025/3/19	ROLES REPORT No. 35 伊藤 庄一「中央アジアの新たな地政学ダイナミズム：重要鉱物と日米協力の可能性」	研究会「広域中央アジアの重畳化する安全保障環境」
2025/3/21	ROLES REPORT No. 36 齋藤 竜太「拡大する中央アジアの動向と限界：ウズベク・アフガン国境とカザフスタンから」	研究会「広域中央アジアの重畳化する安全保障環境」
2025/3/24	ROLES REPORT No. 37 加藤 美保子「OSCE Documentation Centre in Prague (DCiP)での調査について」	研究会「広域中央アジアの重畳化する安全保障環境」
2025/3/26	ROLES REPORT No. 38 齋藤 竜太「中央アジアとアフガニスタンの水問題：SIC-ICWC 作成のレポートを基に」	研究会「広域中央アジアの重畳化する安全保障環境」

【ROLES SAT ANALYSIS 】

衛星画像分析プロジェクトによる、成果を短いレポートの形で広く一般に公開していくシリーズであり、今年度の成果は以下の通り。

作成日	刊行物タイトル	研究会
2024/4/6	ROLES SAT ANALYSIS No.4 ロシアのウクライナ侵攻を振り返る (2022 年)	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/4/8	ROLES SAT ANALYSIS No.5 ロシアのウクライナ侵攻を振り返る (2023 年)	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/4/8	ROLES SAT ANALYSIS No.6 ロシアのウクライナ侵攻を振り返る (2 年間の変化)	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/5/22	ROLES SAT ANALYSIS No.7 中国に核実験実施の動き – Lop Nur 核実験場の画像分析 –	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/6/1	ROLES SAT ANALYSIS No.8 南シナ海における中国の活動	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/6/22	ROLES SAT ANALYSIS No.7 Moves to conduct nuclear tests in China – Image analysis of the Lop Nur nuclear test site –	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/7/19	ROLES SAT ANALYSIS No.8 China's activities in the South China Sea	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/7/31	ROLES SAT ANALYSIS No.9 ロシア北極圏における中国空軍機の展開	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/8/2	ROLES SAT ANALYSIS No.9 Chinese Air Force Deployment to Russian Arctic	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/9/18	ROLES SAT ANALYSIS No.10 ロシア北極圏における核実験場の動向	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/9/18	ROLES SAT ANALYSIS No.10 New activities found in Novaya Zemlya, the Russia's nuclear test site island	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/11/25	ROLES SAT ANALYSIS No.11 ロシア北極圏における核実験場の動向 その 2	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/12/11	ROLES SAT ANALYSIS No.12 カムチャッカ半島の露原潜基地に関する観測手法と新動向	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2024/12/29	ROLES SAT ANALYSIS No.13 ベラルーシに配備されたロシアの戦術核弾頭保管施設の現状	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」
2025/1/10	ROLES SAT ANALYSIS No.14 ロシア、北朝鮮の鉄道輸送活発化と豆	研究会「安全保障研究のた

	満江自動車橋建設の兆候	めの衛星画像分析」
2025/1/25	ROLES SAT ANALYSIS No.15 北朝鮮で新たな海洋・海軍インフラの建設 - 新浦市の画像分析 -	研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」

【ROLES Review】

作成日	刊行物タイトル	研究会
2024/8/31	ROLES REVIEW Vol.5 “North Korea’s Global Activities” (2024.8.31 発行)	研究会「ユーラシア諸地域の内在論理」

【その他】

作成日	刊行物タイトル	研究会
2024/5/26	[Concept Notes]「中東王室の外交儀礼と日本：外交贈答品とその展示空間」に寄せて	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」
2024/6/4	[Conference Papers] 渡邊洪基：国制のファクターとしての帝国大学の建設者	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」
2024/12/7	国際ワークショップ「東シナ海対話フォーラム」の意義と展望 一東京・沖縄・台湾のさらなる相互理解・協力のために	研究会「ユーラシア諸地域の内在論理」
2024/12/30	ROLES NEWSLETTER No.1 (2024 年 12 月)	「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」
2025/1/31	ROLES NEWSLETTER No.2 (2025 年 1 月)	「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」
2025/2/28	ROLES NEWSLETTER No.3 (2025 年 2 月)	「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」
2025/3/31	ROLES NEWSLETTER No.4 (2025 年 3 月)	「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」

		ナ』世界を生き抜くための 外交・安全保障の構想と研 究能力の抜本的強化」
--	--	--

ROLES メンバーのメディア出演、メディア・ジャーナル寄稿実績

※ROLES 所属の教授・准教授・助教・研究員によるメディア出演及びメディア・ジャーナル寄稿実績実績は以下のとおり。

なお、ROLES は発展型総合事業「国際理念と秩序の潮流」及び総合事業「自由・民主主義は何をもたらしことができるか」も実施しているが、本実績を事業別に切り分けることは困難なため、上記 2 事業の実績報告書にも同内容を記載している。

① 池内恵 教授

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/4/20	BS テレ東	日経プラス 9 サタデー 【イスラエル V S イラン 報復の連鎖に歯止めは？】
2024/4/20	日本経済新聞	中東情勢で対話路線の日本、米欧はイラン追加制裁探る G7 外相（会員有料記事）
2024/4/28	BS 朝日	緊迫する中東情勢…対立と攻撃の連鎖に何が？ 激論! クロスファイア
2024/5/5	信濃毎日新聞デジタル	ガザ紛争、崩れる西側の論理 池内恵氏（東京大先端科学技術研究センター教授）（会員有料記事）
2024/8/3	BS テレ東	日経サタデー▼ニュースの疑問【暗殺・報復で中東緊迫▽波乱相場を緊急解説！】
2024/9/1	信濃毎日新聞デジタル	ガザ紛争で揺らぐ外交戦略 池内恵氏（東京大先端科学技術研究センター教授）〈多思彩々〉
2024/9/17	Aletihad Newspaper	From Tokyo to Jakarta: TRENDS Asia tour explores AI and sustainable security
2024/9/17	Aletihad Newspaper	«تريندز» ينظم مؤتمره السنوي الدولي الرابع في اليابان
2024/9/18	Aletihad Newspaper	At the University of Tokyo, TRENDS' Fourth Annual Conference on "Sustainable Security and AI" gets underway
2024/9/18	صحيفة الخليج	انطلاق أعمال مؤتمر تريندز عن «الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي» صحيفة الخليج

2024/9/18	wam.ae	أكد خبراء وأكاديميون وباحثون أهمية وضع إطار عمل عالمي شامل لحوكمة الذكاء الاصطناعي، يغطي الجوانب الأخلاقية والقانونية والاجتماعية، مشدد على ضرورة تعزيز التعاون الدولي في تطوير معايير مشتركة تضمن استخدام هذه التقنية بشكل مسؤول. جاء ذلك في مداخلات اليوم الأول من المؤتمر السنوي الدولي الرابع لمركز تريندز...
2024/9/18	شبكة أخبار الإمارات	انطلاق أعمال مؤتمر تريندز السنوي الرابع حول "الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي" - شبكة أخبار الإمارات
2024/9/19	Aletihad Newspaper	TRENDS' 4th Annual International Conference concludes two days of discussions on security and AI
2024/9/19	Aletihad Newspaper	خبراء: الذكاء الاصطناعي يقود مستقبل الأمن المستدام
2024/9/19	شبكة أخبار الإمارات	عُقد بالتعاون مع جامعة طوكيو المؤتمر السنوي الدولي الرابع لـ"تريندز" يختتم يومين من المناقشات حول الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي - شبكة أخبار الإمارات
2024/9/20	Aletihad Newspaper	المؤتمر السنوي الدولي الرابع لـ«تريندز» يبحث الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي
2024/9/20	trendsresearch.org	«تريندز» وجامعة طوكيو يوقعان اتفاقية تعاون لتعزيز البحث العلمي
2024/9/20	Al-Bayan	مؤتمر «تريندز» يناقش الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي
2024/9/20	جريدة الوطن	المؤتمر السنوي الدولي الرابع لـ«تريندز» يختتم يومين من المناقشات حول الأمن المستدام والذكاء الاصطناعي
2024/9/20	日本経済新聞	アラブ首長国連邦やサウジアラビア、オイルマネーをAIへ 編集委員 久門武史
2024/9/21	Aletihad Newspaper	تعاون بين «تريندز» وجامعة طوكيو
2024/9/21	Aletihad Newspaper	TRENDS launches its 9th global office in Tokyo
2024/9/21	جريدة الوطن	«تريندز» وجامعة طوكيو يوقعان اتفاقية تعاون لتعزيز البحث العلمي
2024/9/21	جريدة الوحدة - جريدة يومية	«تريندز» ي دشّن مكتبه التاسع عالمياً في «طوكيو» - جريدة الوحدة
2024/9/21	جريدة الوحدة - جريدة يومية	«تريندز» وجامعة طوكيو يوقعان اتفاقية تعاون لتعزيز البحث العلمي - جريدة الوحدة
2024/9/21	BS テレ東	日経サタデー▼ニュースの疑問【中東ポケベル爆発の謎…イスラエルどう動く？】
2024/11/6	PHP 総研	『Voice』2024年12月号▼宗教が動かす国際政治
2024/11/16	日本経済新聞	米共和「トリプルレッド」 小野亮さんと Think!
2024/12/1	信濃毎日新聞デジタル	中東の紛争、鍵を握る周辺の地域大国 「取引」重視のトランプ政権発足へ 池内恵（東京大先端科学技術研究センター教授）〈多思彩々〉

2024/12/19	政策シンクタンク PHP 総研	2025 年版 PHP グローバル・リスク分析
2024/12/19	NIKKEI ASIA	Thailand's Pita keen to return as PM candidate after political ban
2024/12/23	公研	「シリアをめぐる闘争」は続く【池内恵】
2025/1/20	慶應戦略構想センター	コメンタリー集『KCS Strategic Foresight 2025』池内恵「中東」
2025/1/31	外交 WEB	『外交』Vol.89 Jan./Feb. 2025▼中東秩序再編 主導権握るイスラエル (PDF 閲覧あり)
2025/2/13	新潮社 Foresight	「12 月 8 日」のシリア内戦終結と新たな中東地域秩序への闘争（※会員 有料記事）

② 小泉悠 准教授

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/4/3	The Japan Times	Negotiating with Putin now won't end the war
2024/4/4	経済界ウェブ	日本の軍事力の欠点は兵器の生産・復帰能力 小泉 悠
2024/4/4	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×東野篤子×鶴岡路人】 ウクライナ戦争と欧 州の苦悩 2024/4/4 放送＜後編＞
2024/4/8	共同通信	ロシア北極圏で核実験の準備進行 衛星画像、「臨界前」の可能性
2024/4/9	BS 日テレ	【深層 NEWS】米外交官ら健康被害訴える「ハバナ症候群」に新事実か 露 軍 GRU「29155 部隊」関与の報道「非致命的音響兵器」使用か “暗殺”疑惑 飛び交うロシアの闇を小泉悠×小谷哲男が徹底分析
2024/4/10	産経新聞	ロシア北極圏で核実験の準備進行 小泉悠氏が衛星画像を分析、露の意図を 「欧米への威嚇」 （※会員有料記事）
2024/4/10	ABEMA	ABEMA Prime▼日米首脳会談 防衛費増強より大事なのは“日本ブランド”安 保戦略のあり方
2024/4/11	ニッポン放送	飯田浩司の OK! Cozy up ! ▼東大先端科学技術研究センター准教授、軍事評 論家 小泉悠
2024/4/14	BS 朝日	日曜スクープ▼防戦のウクライナ追加支援は届くのか 砲弾枯渇の“危機” 大統領が抱く警戒感とは？
2024/4/15	BS フジ	【どう動く？イスラエル“反撃”】イラン報復攻撃で中東緊迫 小泉悠×小原

		凡司×黒井文太郎 2024/4/15 放送＜前編＞
2024/4/22	毎日新聞	小泉悠さんが語る 第1回 ロシア、ウクライナ、国際社会の誤算
2024/4/25	北羽新報社	橋本五郎文庫で27日に開設13周年イベント 著名人十数人がトーク
2024/4/26	BS日テレ	深層NEWS▽米国ウクライナ支援再開で戦況どう変わる？追加予算9兆円 超の本気度は？長射程 ATACMS はすでに供与も▽“プリゴジン氏”登場ゲームとは▽小泉悠×兵頭慎治×小谷哲男
2024/4/30	BSフジ	プライムニュース▼【小泉悠 ×岩田清文】ウクライナ最新戦況 米国の ATACMS 供与で戦況は 【間一髪でアメリカの支援間に合う？】2024/4/30 放送＜後編＞
2024/5/1	BS-TBS	9兆円超 アメリカが支援再開 透けて見える次の対ロシア戦略とは【5月1 日（水）#報道1930】
2024/5/4	朝日新聞デジタル	泥沼のウクライナ戦争、ロシア軍に取り付く「亡霊」小泉悠さんに聞く（※ 会員有料記事）
2024/5/5	毎日新聞	海自ヘリ墜落 訓練の背景に静かな潜水艦 ロシア研究・小泉悠氏（※会員 有料記事）
2024/5/7	PHP	Voice 2024年6月号 不思議の国・ロシア 「戦争と暴力の本質は変わらない」小谷 賢&小泉 悠&先崎彰容
2024/5/7	BSフジ	プライムニュース▼【最新ウクライナ戦況】露軍が拠点制圧か 遠藤良介× 小泉悠 2024/5/7 放送＜前編＞
2024/5/8	ニッポン放送	飯田浩司の OK! Cozy up! ▼2024年5月8日（水）コメンテーター：小泉 悠
2024/5/8	BS日テレ	【深層NEWS】石川一洋×小泉悠が分析 プーチン大統領が通算5期目の就 任式「侵攻の正当性」西側との対話「対等な条件」強調▽新内閣若返り？国 防相の処遇は▽戦術核演習の指示も「核の威嚇」思惑は
2024/5/10	軍事研究	軍事研究 2024年6月号 「無人化する露軍の長距離攻撃能力」 小泉 悠
2024/5/11	朝日放送テレビ	教えて！ニュースライブ 正義のミカタ ABC テレビ 5月11日（土）朝 9:30-11:00（出演）
2024/5/12	テレ朝 NEWS	【ロシア軍がハルキウ州で地上作戦】防御線突破で“越境攻撃”緩衝地帯の設 置が狙いか【日曜スクープ】（2024年5月12日）
2024/5/12	テレ朝 NEWS	【プーチン氏“核部隊は臨戦態勢”】欧州が抱く危機感…ウクライナ支援は新

		段階へ【日曜スクープ】(2024年5月12日)
2024/5/15	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×小谷哲男×熊倉潤】プーチン5期目就任初の 外遊先に中国 狙いは 2024/5/15 放送<前編>
2024/5/16	BS 日テレ	【深層 NEWS】プーチン氏が大統領就任直後に訪中し習主席と会談…ウクラ イナ侵攻で連携狙いか▽“スパイ天国”日本で中露スパイ暗躍の実態「オウム 真理教」背後にロシアの影▽前国家安保局長・北村滋×小泉悠
2024/5/21	BS-TBS	石破 茂×小泉悠 北方領土にロシア軍 “新冷戦”日本の安全保障の重要課題 【5月21日(火)#報道 1930】
2024/5/22	一般財団法人 中東協 力センター	中東協力センターニュース 2024年5月号▼小泉悠「ロシアの中東戦略とウ クライナ戦争のインパクト」
2024/5/24	TBS NEWS DIG	石破茂×小泉悠 この国に何が足りないのか【報道 1930】
2024/6/4	BS-TBS	戦争の転換点か？ウクライナ軍 米供与の兵器でロシア領攻撃の舞台裏【6月 4日(火)#報道 1930】
2024/6/6	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×稲葉義泰】ウクライナ最新戦況 NATO 諸国 が「越境攻撃」容認 【露の早期警戒レーダーを攻撃？】2024/6/6 放送<前 編>
2024/6/13	BS 日テレ	【深層 NEWS】兵頭慎治×小泉悠が分析▽ウクライナ軍が防空システム相次 ぎ攻撃、露軍が迎撃できないワケ▽露軍“戦術核”演習第二段階へ…謎の「ト ラック車列」登場の背景▽プーチン大統領の娘の意外な過去
2024/6/14	BS-TBS	報道 1930▼G7サミット・ウクライナ軍支援は「新段階」？ウ大統領府長 官語る「無人軍新設」の実態は？▼核使用のきっかけは？プーチン氏が胸で 十字切る真意とは？
2024/6/14	朝日新聞出版	月刊 ジュニアエラ 2024年7月号▼なぜなくせないの？
2024/6/15	ABC テレビ	教えて！ニュースライブ 正義のミカタ（出演）
2024/6/19	BS 日テレ	【深層 NEWS】プーチン氏24年ぶり訪朝“ドライブ会談”▽首脳会談で“侵略 された場合は相互支援”新条約署名▽衛星画像で分析…露朝“密輸ルート”武器 運搬か▽“蜜月”北が狙うロシア軍事技術
2024/6/25	spiegel.de	(S+) Asien: Sicherheitsexperte Yu Koizumi über die russische Bedrohung
2024/6/25	東京新聞 TOKYO Web	ウクライナで即時停戦には「反対」 軍事研究家・小泉悠氏「ロシアに主権 奪取を諦めさせなくては」

2024/6/26	共同通信	ロシア極東、極北のミサイル移動 ウクライナ戦に転用か、衛星画像
2024/6/26	BS-TBS	ウクライナ戦争の緊迫 アジアへ？プーチン氏受け入れ ベトナムの本当の狙い【6月26日（水）#報道1930】
2024/6/27	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×鶴岡路人】ウクライナ最新戦況 ウクライナ軍がクリミアの宇宙通信施設を攻撃か 【米供与 ATACMS 投入の波紋】 2024/6/27 放送＜前編＞
2024/6/27	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠&鶴岡路人が解説】露韓の緊張は日本にどう影響？【露朝新条約をどう解釈？】 2024/6/27 放送＜後編＞
2024/7/2	MBS ラジオ	上泉雄一のええなあ！▼小泉悠「ロシアプーチン政権、ロシア国民はどう評価している？」「ウクライナ侵攻はいつまで続くのか？」「ロシアと北朝鮮、パートナーシップ条約の影響」「日本の安全保障の課題」
2024/7/4	PRESIDENT Online	「アメリカの同盟国だから、中国は日本を攻撃しない」は甘い…ロシア・ウクライナ戦争でわかった「核抑止」の現実 核を持たぬ小国が犠牲になる「安定・不安定パラドックス」
2024/7/4	産経新聞	7月4日産経新聞▼正論 小泉悠「露朝『同盟』の背景を読み解く」
2024/7/5	新潮社 Foresight	中国「謎の巨大工事」を合成開口レーダーで透視した——核の「最小限抑止」戦略は変わったか：小泉悠
2024/7/5	PRESIDENT Online	プーチンの本当の狙いはウクライナの領土ではない…小泉悠「ロシアの軍需工場を狙わないと最悪の結末になる」放っておけば「ロシア完全勝利」にどんどん近づく
2024/7/7	韓国『東亜日報』	“북러 조약은 ‘동상이몽’ 혼인신고서…러, 동맹 격상 안할 것”
2024/7/9	BS-TBS	”もしトラ”で和平圧力か/危機感強める NATO のトランプ対策とは【7月9日（火）#報道1930】
2024/7/10	中央公論新社	中央公論 2024年8月号▼北岡伸一×小泉 悠「アメリカの問題、現実的な停戦ライン……歴史的視座から考えるウクライナ戦争」
2024/7/10	軍事研究	Japan Military Review「軍事研究」：軍事研究 2024年8月号▼「第五期プーチン政権」大物排除の国防人事
2024/7/14	東京新聞 TOKYO Web	新たな戦場は「人の脳」 ディープフェイクで対立あおり分断 国が不満や不正を放置すれば「弱点」に
2024/7/16	東京新聞 TOKYO	軍事研究家・小泉悠氏が「人の脳が戦場になる」解説 「信じない人」が狙

	Web	われる<認知戦インタビュー詳報>
2024/7/24	NHK BS	国際報道 2024▼ロシアの核戦略を巡る動きが活発化 OSINT で迫る
2024/7/25	公益財団法人 日本証券経済研究所	定期刊行物】証券レビュー第 64 巻第 7 号(2024 年 7 月)▼小泉悠：講演「大統領選挙後のロシア政治・外交の行方について」
2024/7/26	BS 日テレ	【深層 NEWS】ゼレンスキー氏が対露交渉示唆も米大統領戦影響か▽露軍 1 日 6 k m 驚異的前進…縦横無尽「バイク部隊」とは▽露軍の武器庫全壊…ウクライナ軍が無人機攻撃▽モスクワ爆発事件の瞬間…露軍将校狙いか
2024/7/27	講談社	トランプ再選で「来年中にウクライナは敗北」し、ロシアの「属国」になる (週刊現代)
2024/7/31	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×鈴木一人×伊藤融】ウクライナ戦争 インドの本音は 2024/7/31 放送<前編>
2024/7/31	BS フジ	プライムニュース▼【実利を優先するのは当たり前?】全方位&実利主義インド外交の功罪 小泉悠×鈴木一人×伊藤融 2024/7/31 放送<後編>
2024/7/31	Numero TOKYO	小泉 悠×リサタニムラ×シャラ ラジマ鼎談：映画を見て、戦争と平和について考えてみよう
2024/7/31	ニッポン放送	飯田浩司の OK! Cozy up! ▼2024 年 7 月 31 日 (水) コメントーター： 小泉悠
2024/8/1	BS 日テレ	【深層 NEWS】衛星画像で分析…中露が北極圏共同偵察飛行、中国「氷上シルクロード」構想も北極圏めぐる中露の戦略▽米独長距離ミサイル配備計画 ブーチン氏「冷戦時代をほうふつ」露ミサイル配備「欧米も射程内」
2024/8/2	South China Morning Post	Chinese Y-20 planes seen at Russian airport on same day as patrol near Alaska
2024/8/6	BS-TBS	衛星画像が捉えた中国核戦力の増強加速 「第 3 の核時代」の"相互確証破壊"とは【8 月 6 日(火)#報道 1930】
2024/8/7	BS フジ	プライムニュース▼【欧州戦闘機が初の同時展開 その実力は】"軍事マニア・小泉悠"が見た日欧訓練 佐藤丙午×小泉悠×張雲 2024/8/7 放送<前編>
2024/8/7	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×佐藤丙午×張雲】ロシアが中距離核配備? 増大する核の脅威 2024/8/7 放送<後編>
2024/8/11	テレ東	池上彰の戦争を考える S P 2 0 2 4 なぜ、世界から戦争はなくなるの

		か
2024/8/14	AERA with Kids+	「戦争はなぜ起きるの？」子どもたちの疑問に軍事の専門家はどうか？ 人間が戦争をする“3つの理由”とは
2024/8/21	BS フジ	プライムニュース◆岩田元陸幕長×小泉悠 ウ軍“露領への進軍”を軍事解析
2024/8/22	BS-TBS	ロシア領進攻の影響は／徴集兵が捕虜に…プーチン氏の足元揺らぐ？【8月22日（木）#報道 1930】
2024/8/22	テレビ朝日	8/22 放送羽鳥慎一モーニングショー▼「戦争開始直後 ウクライナ、ロシア 和平交渉で決裂…今後の着地点は」
2024/8/27	NHK	ニュース7▼ロシアの大規模攻撃 狙いは 今後の焦点は
2024/8/30	ニッポン放送	飯田浩司の OK! Cozy up!▼灼熱の W コメンテーターウィーク
2024/9/10	軍事研究	軍事研究 2024 年 10 月号▼脅しをかけるロシアとその対抗措置「極東巻き 込む米露中距離ミサイル危機」 INF の破棄から五年、米露は中距離核ミサ イルの配備再開に踏み切る。そのオプションとは？
2024/9/13	BS 日テレ	【深層 NEWS】「空飛ぶチェルノブイリ」小型原子炉搭載巡航ミサイル「ブ レベスニク」配備地点が衛星画像で明らかに…射程距離は理論上「無限」ロ シア「核の威嚇」メッセージか
2024/9/13	毎日新聞	論点：戦争研究者と先の大戦
2024/9/17	ニッポン放送	飯田浩司の OK! Cozy up!▼軍事評論家 小泉悠
2024/9/19	BS フジ	プライムニュース▼【小泉悠×高田克樹×鶴岡路人が緊急分析】 ウクライ ナ「勝利計画」の中身 2024/9/19 放送＜前編＞
2024/9/24	BS 日テレ	【深層 NEWS】ロシア軍機が領空侵犯で空自が初のフレア警告▽3 度の領空 侵犯“ジグザグ旋回”狙いは▽総裁選候補が言及…厳しい声も▽ゼレンスキー 氏「勝利計画」4 つのポイント…ウクライナ戦術に変化は
2024/9/24	日本経済新聞	小泉悠氏、ロシアの領空侵犯「中口艦艇の航行と関係」 （会員有料記事）
2024/9/25	株式会社潮書房光人 新社	月刊雑誌「丸」2024 年 11 月号▼“人類破滅装置”ソ連弾道ミサイル潜水艦分 析 東京大学先端科学技術研究センター准教授 小泉悠
2024/9/25	季刊高知	季刊高知 94 号▼ジャイアント★インタビュー東京大学 先端科学技術研究 センター准教授 軍事アナリスト 小泉悠さん
2024/9/27	プレジデント	プレジデント 2024 年 10/18 号（2024 年 09 月 27 日発売）6 大分野別クイ ズ「バカの壁」▼ウクライナ戦争はなぜ終わらないのか……プーチンが悪い

		or ゼレンスキーが悪い——小泉 悠
2024/9/28	NHK	サタデーウォッチ 9 ▼北朝鮮脅威！ミサイル実戦で
2024/10/3	新潮社	週刊新潮▼元 NHK 岩田明子の貴方にスポットライト 小泉 悠 東京大学准教授
2024/10/6	読売テレビ	そこまで言って委員会 N P 米中露韓を徹底解剖！世界の気になるニュース S P
2024/10/7	BS フジ	プライムニュース▼【最新“露ウ戦線”予想外の撤退戦】新たな動きを見せる露ウ両軍の地上戦を読み解く 山下裕貴×小泉悠 2024/10/7 放送＜前編＞
2024/10/7	産経新聞	＜正論＞石破政権は現実的対露外交貫け 東京大学先端科学技術研究センター准教授、小泉悠（※会員有料記事）
2024/10/11	BS-TBS	石破総理の"安全保障"改革/「アジア版 NATO」が伝えたメッセージとは 【10 月 11 日(金)#報道 1930】
2024/10/12	毎日新聞	核軍縮に逆風下、被団協のノーベル平和賞は「意義大」 小泉悠氏
2024/10/13	BS11	【定点観測・大統領選】第 2 回 大詰め大統領選！ 中国、ロシアは？（10 月 13 日放送）笹川平和財団のスペシャリストが、大統領選を徹底解説！ ▼出演：兼原信克、小泉悠 山上信吾 上野愛奈 BS11
2024/10/17	BS-TBS	北朝鮮・中東情勢にロシアの影／ウクライナで劇的進化 ドローンと AI の「新たな戦争」 【10 月 17 日(木)#報道 1930】
2024/10/18	ニッポン放送	飯田浩司の OK!Cozy up! ▼2024 年 10 月 18 日（金）コメンテーター：小泉悠
2024/10/22	War on the Rocks	Russian Pacific Fleet Redux: Japan's North as a New Center of Gravity - War on the Rocks
2024/10/23	BS フジ	プライムニュース▼【兵頭慎治×東野篤子×小泉悠】ウクライナ勝利計画の現実味 2024/10/23 放送＜前編＞
2024/10/26	N1	Sigurnosni strahovi u sigurnom Japanu
2024/10/27	テレ東・BS テレ東 7ch(公式)	集まれ！総選挙ライブ【20 人の出演者が選挙を語り 政治家に問う選挙特番】
2024/11/9	ABC テレビ	教えて！ニュースライブ 正義のミカタ▼◇露朝 ロシアが北朝鮮兵に武器供与！？そしてロシア西部に派兵！？ロシア・北朝鮮は今後トランプ氏とどのような関係を築いていく？（出演）

2024/11/9	月刊軍事研究	軍事研究 2024 年 12 月号▼ロシア、北極圏で核実験再開か!?唯一の核実験場ノヴァヤ・ゼムリャー島で進む大規模な建設工事、プーチンの企みとは 小泉悠
2024/11/15	BS 日テレ	【深層 NEWS】ロシア映画会社が軍に戦車提供▽北朝鮮自走砲も移送…北朝鮮兵派兵の実態▽プーチン氏とトランプ氏“電話会談”報道をロシアが否定なぜ▽2 か月で死傷者 8 万人超…損失甚大も戦果急ぐプーチン氏思惑
2024/11/21	読売新聞	ロシアがわずか 1000 k m 先に ICBM 発射情報、アメリカへ「核攻撃いとわない」警告か
2024/11/22	産経新聞	<正論>トランプ政権とウクライナ支援 東京大学先端科学技術研究センター准教授・小泉悠（※有料会員記事）
2024/11/25	BS フジ	プライムニュース▼ロシア新型ミサイルの衝撃!米欧支援加速でウ軍巻き返しは?
2024/11/29	月刊軍事研究	「軍事研究」2025 年 1 月号 別冊▼ロシアの継戦能力は何故尽きないのか…小泉悠
2024/11/29	BS 日テレ	深層 NEWS▽「欧州諸国の派兵議論か」仏有力視報じる。NATO が抱く危機感とは
2024/12/6	潮書房光人新社	軍事専門家・小泉悠が警告…! 2025 年、日本と世界が直面する「大規模戦争の危ない現実」と「日本の安全保障のリスク」
2024/12/6	言論テレビ	ウ戦争再び激化! 停戦の駆け引き鮮烈 トランプ『就任 24H で戦争は終わらせる』
2024/12/12	NHK	国際報道 2024▼「ロシアの核 日本近海の“戦力”増強」 衛星画像などの分析から、ロシアのカムチャツカ半島に軍の施設が次々に増強されている実態が明らかに 東京大学の #小泉悠 准教授や海上自衛隊元海将と読み解く
2024/12/12	BS フジ	【小泉 悠×黒井文太郎×ジョセフ・クラフト】反政府勢力「シリア解放機構」とは 2024/12/12 放送<前編>
2024/12/16	ニッポン放送	飯田浩司の OK! Cozy up! ▼16 (月) 軍事評論家 小泉悠
2024/12/17	BS 日テレ	【深層 NEWS】モスクワ爆発で将校ら死亡…ウクライナ作戦認める報道▽シリア露軍基地で退避の動き…ロシア影響力低下も▽ウクライナがシリア反政府勢力支援か▽クルスク州戦闘に北朝鮮兵本格投入…犠牲拡大も
2024/12/19	日テレ NEWS NNN	北朝鮮兵、ウクライナ侵攻の最前線に…ゼレンスキー氏「プーチンのために

		死ぬ理由ない」 北朝鮮国民、派遣を知らされず？（2024 年 12 月 19 日掲載）
2024/12/21	ABC テレビ	【前半戦】世界“ふてほど”No.1 グランプリ 2024！国民民主党・玉木氏が緊急参戦！世界で一番「不適切にもほどがある」国を決める 3 時間半 SP
2024/12/22	朝日新聞デジタル	<お知らせ> トランプ再登場でウクライナは 記者サロン
2024/12/22	文春オンライン	【12 月 22 日(日)15 時～】小泉悠×高橋杉雄「虚構のなかの『冷戦』・『内戦』・『クーデター』」
2024/12/23	TBS ラジオ	『荻上チキ・Session』▼特集「小泉悠×荻上チキ～セッション・ニュース年録 2024」
2024/12/25	BS フジ	プライムニュースDX 米大統領選、自民党総裁選、総選挙、2024 年選挙を徹底検証
2024/12/27	日経ビジネス電子版	昭和 100 年の教訓 栄光と停滞、30 人の証言▼ウクライナ戦争 小泉 悠 [東京大学准教授]
2024/12/27	TBS NEWS DIG	N スタ▼“ロシア軍地对空ミサイルの誤射”か カザフスタンで旅客機墜落 38 人死亡 機体には複数の小さな穴 「防空システム」によってできた可能性が
2024/12/27	朝日新聞デジタル	小泉悠さん「諜報機関の人間なら見逃さない」 海底ケーブルのリスク
2024/12/29	TBS テレビ	報道の日 2024 TBS テレビ報道 70 年～8 つの禁断ニュース
2024/12/31	上泉雄一のええなあ！	小泉悠「ロシアによるウクライナ侵攻、停戦はアメリカ次第」「プーチンの次の一手は、デモンストレーションの核使用」「アサド政権崩壊シリアでロシアの動きは？日本の安全保障は？」12月31日
2025/1/6	BS 日テレ	【深層 NEWS】戦後 80 年「いまを、戦前にさせない」ウクライナ侵攻の終わらせ方▽北朝鮮兵クルスク州で大損失「ロシア軍に守られていない」▽ロシアが日本との戦争想定か…日本・韓国攻撃目標 160 カ所計画
2025/1/10	月刊軍事研究	軍事研究 2025 年 2 月号▼ロシアの新「核ドクトリン」と抑止戦略
2025/1/10	中央公論.jp	中央公論 2025 年 2 月号◆ウクライナ「停戦」シナリオを読む▼小泉 悠
2025/1/14	NHK	第六夜 近くて遠い？大国のリアル@明治神宮外苑 - プラット -
2025/1/14	BS フジ	プライムニュース▼【ロシア西部とウクライナ東部での激戦】越境攻撃と北朝鮮兵の実態 岩田清文×東野篤子×小泉悠×神保謙 2025/1/14 放送<前編>

2025/1/14	BS フジ	プライムニュース▼【トランプ流の停戦案】領土 & NATO をめぐる停戦交渉の行方 岩田清文×東野篤子×小泉悠×神保謙 2025/1/14 放送＜後編＞
2025/1/17	オールナイトニッポン	松任谷由実のオールナイトニッポン GOLD (1 月 17 日ゲスト出演)
2025/1/20	慶應戦略構想センター	コメンタリー集『KCS Strategic Foresight 2025』小泉悠「ロシア」
2025/1/23	BS-TBS	外交・安保に 2 つの“派閥”？ トランプ政権の安保戦略「力による平和」とは何か【1 月 23 日(木)#報道 1930】
2025/1/24	BS 日テレ	【深層 NEWS】クルスク州の攻防ロシア「6 割奪還」主張…停戦交渉への影響は▽ゼレンスキー氏平和維持部隊「最低 20 万人必要」▽トランプ氏「自国第一主義」で世界は▽トランプ氏「賢い男だ」金正恩氏と対話模索
2025/1/28	日経ビジネス電子版	小泉悠×山口亮 グラデーション化する戦争、日本はすでに巻き込まれている
2025/1/28	みんかぶ（マガジン）	小泉悠が語る「プーチンの『本当の勝利』」3 つの重要ポイント…トランプ就任で何が変わるのか「もし軍事援助が削減されたら？」
2025/1/29	全国無料テレビ BS11	【トランプ】ロシアに制裁圧力 ウクライナ停戦の行方は？ インサイド OUT
2025/1/31	外交 WEB	『外交』Vol.89 Jan./Feb. 2025▼戦時下で変貌を遂げるロシア軍（PDF 閲覧あり）
2025/2/1	北海道新聞デジタル	脅威とは言えない北方領土のロシア軍 中口の軍事連携、北方と南西は一つながりと認識を
2025/2/8	NHK	北方領土 ロシア化進む ホテル スパ サウナ…衛星写真や SNS で分析 ウクライナ侵攻後に変化 軍事基地にも…
2025/2/13	日経ビジネス電子版	小泉悠×山口亮 台湾有事、中国が「今しかない」と思うと危ない
2025/2/14	日テレ NEWS NNN	ウクライナ“停戦交渉”のウラ側は——専門家 3 人に聞く 「ノーベル平和賞」狙い？ 見せかけの「充電期間」？ 再侵攻の可能性も（2025 年 2 月 14 日掲載）
2025/2/14	日本経済新聞	（停戦交渉 識者の見方）米口のみでは実現厳しく 東大先端科学技術研究センター准教授 小泉悠氏（※会員限定記事）
2025/2/17	BS11	インサイド OUT▼【ウクライナ】侵攻 3 年"トランプ停戦"はあるのか？ 倉

		井高志（元ウクライナ大使） 小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授） VTR 出演：ハンノ・ベフクル(エストニア国防相)
2025/2/18	福井新聞 D 刊	軍事 小泉悠・東京大准教授 ロシア優位も目的未達成
2025/2/18	BS フジ	プライムニュース▼【激動ウクライナ停戦交渉】ロシア寄りの米国 & プーチンの思惑とゼレンスキー大統領の反発 手嶋龍一×岡部芳彦×小泉悠 2025/2/18 放送＜前編＞
2025/2/18	日経ビジネス電子版	小泉悠×山口亮 北朝鮮と台湾海峡「ダブル有事」に備えよ
2025/2/18	DEEP DIVE	002 トランプ政権を読み解く
2025/2/21	BS 日テレ	【深層 NEWS】米ケロッグ特使がゼレンスキー氏と会談も共同会見中止なぜ▼トランプ氏“非常にイラ立っている”ゼレンスキー氏「トランプ氏は偽情報空間に生存」▼“ロシアは侵略者”表現に米国反対…プーチン氏の人心掌握術
2025/2/22	NHK	トランプとプーチン “ディール”の深層 - NHK スペシャル
2025/2/22	読売新聞	論点スペシャル▼露の要求 丸のみ恐れ 小泉悠氏
2025/2/22	毎日新聞	ウクライナ侵攻 3 年・識者に問う：小泉悠さんに聞く/上 「全力で殴り合う準備」せずに侵攻したロシア
2025/2/23	毎日新聞	ウクライナ侵攻 3 年・識者に問う：小泉悠さんに聞く/中 米露による合意「降伏の強要になりかねない
2025/2/24	毎日新聞	ウクライナ侵攻・3 年：米、ロシアに強く出られるか 東大先端科学技術研究センター准教授 小泉悠さん
2025/2/24	BS-TBS	ウクライナ侵攻 3 年「ロシアは停戦を急がない」【2 月 24 日（月）#報道 1930】
2025/2/24	日本経済新聞	ロシアはウクライナの属国化に固執 小泉悠・東大准教授
2025/2/24	毎日新聞	ウクライナ侵攻 3 年・識者に問う：小泉悠さんに聞く/下 「大日本帝国のような国」どう向き合うべきか
2025/2/26	産経ニュース	＜正論＞人ごとではない頭越しの「停戦」 東京大学先端科学技術研究センター准教授・小泉悠
2025/2/28	月刊正論	月刊正論 2025 年 4 月号▼小泉悠／「戦争のある 21 世紀」を生きるために《第 25 回正論新風賞受賞記念論文》
2025/3/4	朝日新聞	ウクライナ、米の軍事支援停止でいつまで戦えるのか 小泉悠氏が分析 [トランプ再来]

2025/3/4	毎日新聞	戦後 80 年「戦争をしない」を続けるために：身勝手な「大国」に振り回されない 米中露に日本はどう対抗する
2025/3/6	VOICE	VOICE(ヴォイス) 2025 年 4 月号▼「復古主義者」としての信長とプーチン 呉座勇一 & 小泉悠
2025/3/8	NHK	サタデーウオッチ 9 激しい寒暖差…雪も▽ウクライナ支援の行方▽退職の理由投稿
2025/3/9	TBS	サンデーモーニング▼「最も影響が大きいのは情報提供」これまでの支援額、日本円にして 10 兆円…アメリカがウクライナへの軍事支援を一時停止 その影響の内実は：手作りフリップ
2025/3/10	産経ニュース	小泉悠氏が講演 ウクライナ「抵抗やめるわけにはいかず」 大阪「正論」懇話会
2025/3/10	月刊軍事研究	「軍事研究」 2025 年 4 月号▼新国防相ペロウソフが描く露軍の将来像 小泉悠
2025/3/12	日経 BOOK プラス	小泉悠×山口亮 東アジア人の視点から戦争を考える
2025/3/13	日テレ NEWS	【#きっかけ解説】“台湾有事”について考える 「軍事的圧力」強める中国 本当に台湾統一に武力を用いるのか？
2025/3/13	BS-TBS	報道 1 9 3 0 ▼譲らないプーチン氏は米ウ停戦案にどう動く、ゼ大統領の譲歩の真意は
2025/3/19	ANN	報道ステーション（出演）【プーチン氏の“狙い”】米ロ首脳 30 日間停戦ならず
2025/3/20	TBS	“停戦後”の世界 バルト三国の覚悟 譲らない停戦条件 ロシア国民の支持は 【3 月 20 日(木)#報道 1930】
2025/3/22	クーリエ・ジャポン	「プーチンはいまのトランプとは停戦に応じない」 小泉悠が読む交渉の行方
2025/3/24	笹川平和財団	戦時下ロシア軍の変貌——その現状と将来像
2025/3/25	BS フジ	プライムニュース▼【米露・米ウ停戦再協議の裏側】エネルギー施設への攻撃回避は？全面停戦への進展は？ 東野篤子×神保 謙×小泉 悠 2025/3/25 放送＜前編＞
2025/3/25	朝日新聞	大国による「勢力分割」でロシアに共鳴か 北米にこだわるトランプ氏 [トランプ再来]

2025/3/29	ABC テレビ	教えて！ニュースライブ 正義のミカタ▼藤井聡、高橋洋一 高市早苗 小泉悠 西田亮介 ほか
-----------	---------	--

③国末憲人 特任教授

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/4/1	Nippon.com	Europe's Response to the War in Gaza: Finding a Path to Constructive Engagement
2024/4/4	新潮社 Foresight	「次はナルヴァ」？ エストニア、国境の街の沈黙：国末憲人
2024/5/31	新潮社 Foresight	【特別インタビュー】パスカル・ベリノー仏パリ政治学院名誉教授（上）——欧州議会選で右翼ポピュリズムを後押しする「争点の国内化」
2024/5/31	新潮社 Foresight	【特別インタビュー】パスカル・ベリノー仏パリ政治学院名誉教授（下）——欧州政治の中道主導は変わらない
2024/6/10	BS-TBS	極右台頭の裏に中ロの影？“極右”が“普通”になっていく世界は…【6月10日（月）#報道1930】
2024/6/12	毎日新聞	「ウクライナ 停戦難しい」 東大・国末特任教授 取材もとに講演 広島／広島
2024/6/21	新潮社 Foresight	「戦争」と「復興」が同居する日常の重カ——キーウ、イルピン、ポロジャンカ、アンドリーウカ
2024/6/22	新潮社 Foresight	「戦争疲れ」と「戦争慣れ」——揺れる世論、再び顔を覗かせる“悪弊”
2024/6/23	新潮社 Foresight	取り残された前線州——ヘルソンへの旅
2024/6/25	新潮社 Foresight	フランス総選挙中間報告（上） マクロン「解散」の勝算と「四銃士」の策謀
2024/6/26	新潮社 Foresight	フランス総選挙中間報告（中） 右翼右派の連携を目論む「メディア王」
2024/6/26	新潮社 Foresight	フランス総選挙中間報告（下） 揺らぐ新人民戦線、左翼にかつての勢いなく
2024/6/28	新潮社 Foresight	ヘルソン、拷問施設の実態を探る——男性の精神を破壊するためのレイプ
2024/6/29	新潮社 Foresight	拘束された元知事の軌跡——「ウクライナ軍はお前を殺すだろう」
2024/6/30	新潮社 Foresight	「虐殺の街」その後——ブチャ・イワナフランカ通り再訪
2024/7/6	新潮社 Foresight	[フランス総選挙] 統治経験なき右翼、核保有国フランスを治める不安——

		国際問題専門誌『グラン・コンティナン』代表ジル・グレサニ氏
2024/8/8	新潮社 Foresight	〔混迷フランス政治〕大躍進でも勝ち切れない右翼「国民連合」、その「革命っぽさ」の虚実（上）
2024/8/8	新潮社 Foresight	〔混迷フランス政治〕大躍進でも勝ち切れない右翼「国民連合」、その「革命っぽさ」の虚実（下）
2024/8/9	新潮社 Foresight	〔混迷フランス政治〕左派左翼には選べぬ次期首相、焦点は唯一「中道・左派の連携」のみ
2024/8/19	新潮社 Foresight	英保守党「大敗」を演出した「14 年間の失望の蓄積」
2024/10/3	新潮社 Foresight	フランス「バルニエ内閣」が示唆する欧州政治の「新トレンド」
2024/10/25	新潮社 Foresight	アルメニア「サバイバル戦略の行方」（1） ユーラシアの十字路
2024/10/26	新潮社 Foresight	アルメニア「サバイバル戦略の行方」（2） 圧迫される国土
2024/10/27	新潮社 Foresight	アルメニア「サバイバル戦略の行方」（3） 地域大国のゲームのはざままで
2024/11/29	新潮社 Foresight	第 2 部 チェルノブイリの捕虜たち（1） 原発占領
2024/11/30	新潮社 Foresight	第 2 部 チェルノブイリの捕虜たち（2） 連日の暴行
2024/12/6	新潮社 Foresight	第 2 部 チェルノブイリの捕虜たち（3） 473 日の拘束
2024/12/7	新潮社 Foresight	第 2 部 チェルノブイリの捕虜たち（4） 帰らない人々
2024/12/8	新潮社 Foresight	第 2 部 チェルノブイリの捕虜たち（5） 占領地の明暗
2024/12/19	政策シンクタンク PHP 総研	2025 年版 PHP グローバル・リスク分析
2024/12/31	新潮社 Foresight	フランス「終わらない政治危機」の構造——物語なき中道はデマゴークに抗えず
2025/1/23	人吉新聞社	元記者の国末さん 五木分校で生徒に戦争、報道語る
2025/1/28	熊本日日新聞社	ウクライナ取材の元記者、人吉高五木分校で講話 「無縁ではない」
2025/2/3	新潮社 Foresight	ナゴルノ・カラバフ「統一」後の現在（1） 地雷と復興
2025/2/4	新潮社 Foresight	ナゴルノ・カラバフ「統一」後の現在（2） シュシャ、住民は帰還したが
2025/2/10	新潮社 Foresight	ナゴルノ・カラバフ「統一」後の現在（3） 住民の定着進むラチン
2025/2/11	新潮社 Foresight	ナゴルノ・カラバフ「統一」後の現在（4） バクー：アルメニア非難とロシアへの配慮
2025/3/14	新潮社 Foresight	第 3 部 ミサイルの下で（1） ハルキウ、前線の静寂

2025/3/15	新潮社 Foresight	第3部 ミサイルの下で (2) ハルキウ、墓標なき墓地
2025/3/22	新潮社 Foresight	第3部 ミサイルの下で (3) オデッサ、狙われた世界遺産
2025/3/23	新潮社 Foresight	第3部 ミサイルの下で (4) オデッサ、戦争と文化
2025/3/24	新潮社 Foresight	第3部 ミサイルの下で (5) キーウ、取り残される「正義」

③ 山口亮 特任助教

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/4/2	TBS	Nスタ ten (出演)
2024/4/2	TBS	北朝鮮ミサイル発射「狙いは武器の“多様化”と戦力向上のための“更新”」東京大学先端科学技術研究センター 山口亮特任助教インタビュー
2024/4/3	霞山会	月刊『東亜』2024年4月号▼*統一と体制維持の手段を絞った北朝鮮 山口亮
2024/4/5	Atlantic Council	The US and Japan are upgrading their security alliance. Here's what needs to come next.
2024/4/8	SBC 信越放送	SBC ラジオ「丸山隆之のあさまる」SBC ラジオ あさまるコラム
2024/4/10	South China Morning Post	Japan gets 'some of the same toys as the big boys' as first aircraft carrier since WWII enters service South China Morning Post (scmp.com)
2024/5/14	South China Morning Post	Drone footage of Japan warship on Chinese social media sparks concern in Tokyo
2024/5/14	NK PRO	Russia freighter returns to North Korean port amid new allegations of arms trade
2024/5/16	読売テレビ	【ヨコスカ解説】急接近する中露、それぞれの思惑—プーチン大統領、中国訪問 蜜月の裏で中国を“憂鬱”にさせる北朝鮮の存在とは？
2024/5/20	NK PRO	Why even faulty North Korean weapons won't derail military ties with Russia
2024/5/27	テレビ朝日	報道ステーション 5月27日 「北朝鮮の偵察衛星打ち上げについて」
2024/5/27	South China Morning Post	Can Japan, China resolve Fukushima water tensions? Experts say it's unlikely
2024/5/28	読売テレビ	朝生ワイド す・またん！Zip！「北朝鮮の偵察衛星について」5月28日
2024/6/10	South China Morning Post	Japan's coastguard to build megaship – is move aimed at China in Diaoyu Islands?
2024/6/17	NK News	G7 condemns North Korea-Russia arms trade ahead of possible Putin-Kim

		summit
2024/6/17	NK News	North Korea has added 20 nukes to arsenal since last year, think tank estimates
2024/6/18	South China Morning Post	Coastguard law could trigger new conflict 'flashpoints' in Japan-China ties
2024/6/25	霞山会	月刊『東亜』2024年7月号▼「北朝鮮の軍事偵察衛星システムの現状」 山口 亮
2024/6/26	South China Morning Post	Japan on edge as tightening Russia-North Korea ties stoke defence anxieties
2024/7/8	SBC 信越放送	SBC ラジオ「丸山隆之のあさまる」 （出演）
2024/7/9	South China Morning Post	Japan leverages demining diplomacy to counter China's Cambodia influence
2024/7/9	NK News	Russian military jet lands in North Korea, first known flight since Putin visit
2024/7/16	South China Morning Post	Japan steps up security for politicians, VIPs after Trump rally shooting
2024/7/22	DW	Japan's influence in Pacific comes up against China
2024/7/30	South China Morning Post	US military command upgrade in Japan a 'powerful geopolitical signal to China'
2024/8/6	KOREA PRO	Seoul and Tokyo boost defense ties, but remain vulnerable to political winds
2024/8/19	NHK	NHK ニュース「米韓軍事演習」
2024/8/27	South China Morning Post	Seoul's 'submissive' Tokyo ties blasted as Kishida seeks Yoon talks before exit
2024/8/27	NK PRO	How North Korea's new suicide drones could menace the South, with or without AI

⑤西山美久 特任助教

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/5/20	Foresight	プーチンの愛国心教育は新たな「メディンスキーとトルクノフの歴史教科書」にどう記されたか（上）
2024/5/20	Foresight	プーチンの愛国心教育は新たな「メディンスキーとトルクノフの歴史教科書」

		にどう記されたか（下）
--	--	-------------

⑥豊田耕平 連携研究員

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/4/9	Arab News Japan	Japanese group pins hopes on Saudi Arabia for energy transition projects
2024/7/4	新潮社 Foresight	サウジ・UAE、国際 LNG 市場進出の狙いを捉える「市場・知見・外交」の三視点
2024/9/17	エネルギーフォーラム	イスラエル・レバノン戦線注視 エジプトのガス需給に影響も（会員有料記事）
2024/9/20	日本経済新聞	アラブ首長国連邦やサウジアラビア、オイルマネーを AI へ 編集委員 久門武史
2024/9/27	新潮社 Foresight	サウジ・UAE の脱炭素目標「10 年差」が示すエネルギー転換の戦略的差異：天然ガスの国内需要から LNG・水素輸出まで
2024/12/17	新潮社 Foresight	湾岸アラブ諸国は「水素外交」の布石着々―サウジ・UAE の再エネ「ナショナル・チャンピオン」企業が持つ戦略性
2025/2/18	新潮社 Foresight	暗転したエジプトの東地中海「エネルギーハブ」構想：持続可能な供給源となりえるか

⑦田中祐真 特任研究員

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/4/2	新潮社 Foresight	「中央アジアのロシア離れ」は本当か？―ロシア・ウクライナ戦争が浮彫りにする地域秩序の複雑性（上）：田中祐真
2024/4/2	新潮社 Foresight	「中央アジアのロシア離れ」は本当か？―ロシア・ウクライナ戦争が浮彫りにする地域秩序の複雑性（下）：田中祐真

⑧石本凌也 特任研究員

日付	メディア媒体	番組名・記事タイトル
2024/8/21	The Diplomat	Strengthening Japan-US Security Relations Over Extended Deterrence
2025/1/7	SYNODOS	核兵器問題をめぐる日本の立場：唯一の「被爆国」であるアメリカの「同盟国」の実相/石本凌也

2. 外国シンクタンク・有識者等との連携、ネットワークを通じた国際世論の醸成への貢献（若手人材の参画を含む）

若手人材の育成

本事業では、発展型総合事業「『ポスト・ウクライナ』世界を生き抜くための外交・安全保障の構想と研究能力の抜本的強化」、総合事業「自由・民主主義は何をもたらすことができるか」と連携しながら、研究能力、対外発信能力を育成すべく、パーマネントのポストを持たない若手の人材を積極的に登用しているほか、インターンの採用による次世代人材の発掘・育成を行っている。とりわけ、本事業では主として以下のプログラムを実施した。

(1) インターン制度の導入（3 事業共通）

本事業では、3 か月ごとにインターンを採用しており、春季・夏季・秋季・冬季インターンとして以下の 14 名を採用した。いずれも高い英語能力を有し、ROLES 助教・研究員の下で、調査研究支援や、国際ワークショップの企画運営に参画している。

- ・ 平田 拓海 早稲田大学大学院政治学研究科修士課程 2 年（春季・夏季）
- ・ 武田 大輝 東京大学前期教養学部文科一類 2 年（春季・夏季）
- ・ 倉石 東那 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻国際関係論コース博士後期課程（春季・夏季）
- ・ 浅野 華以 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻広域システム科学系修士課程 2 年（春季・夏季・秋季・冬季）
- ・ 芦田 直澄 東京大学前期教養学部文科一類 2 年（春季・夏季・秋季・冬季）
- ・ 長谷川 航太 早稲田大学大学院政治学研究科修士課程 2 年（春季・夏季・秋季・冬季）
- ・ 林 奈都美 早稲田大学国際教養学部国際教養学科 4 年（春季・夏季・秋季・冬季）
- ・ 宮本 緋夏 法政大学法学部国際政治学科 4 年（春季・夏季・秋季・冬季）
- ・ 川目 慎太郎 立教大学異文化コミュニケーション学部異文化コミュニケーション学科 4 年（秋季・冬季）
- ・ 渡辺 大翔 早稲田大学大学院政治学研究科修士課程 1 年（秋季・冬季）
- ・ 杉山 弦 東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻関連基礎科学系科学技術基礎論大講座博士後期課程（秋季・冬季）

- ・ 童 児夢 早稲田大学大学院アジア太平洋研究科修士課程 1 年（秋季・冬季）
- ・ 何 山 放送大学教養学部通信課程（秋季・冬季）
- ・ 手塚 颯一郎 青山学院大学法学部法学科 4 年（秋季・冬季）

(2) わかもの政策研究会の立ち上げ

本事業では、「若者の近くから語りかけるアプローチ」の一環として、学生団体と協力して「わかもの政策研究会」を立ち上げたが、本研究会を母体として、30 歳までのわかもの世代が日本の将来像を考えるイベント・シリーズ「わかものが考える日本のグランドデザインとは 第 1 回」を立ち上げた。

自分たちが社会の中核を担う 21 世紀半ばを想定し、その時にまでに日本がどうなっているべきなのかをグランドデザインで考えていく。そのため、本シリーズでは賛否両論のあるテーマを毎回選定し、若者同士による議論と自分たちなりの政策論の発表などを行う。

第 1 回目の会議は、12 月 22 日に実施予定である。

（第 1 回会合案内 URL）<https://roles.rcast.u-tokyo.ac.jp/event/20241130>

(3) 第 2 回徳之島国際ユースキャンプ (Tokunoshima International Youth Camp) の開催（発展型総合事業「国際理念と秩序の潮流」の研究会「宗教と国際秩序」を中心に、本事業及び総合事業「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」との合同事業として実施）

【日時】2024 年 12 月 2 日～8 日

【場所】徳之島伊仙町

【参加者】

1) 学生（全行程参加 12 名、一部参加 1 名）

ボスニア・ヘルツェゴビナ

- ・ アナスタシヤ・プラブシッチ（バニャルカ大学）
- ・ ガブリエラ・アセンティッチ（バニャルカ大学）
- ・ ニキツァ・ブバロ（モスタル大学）
- ・ ウラディミル・ペガル（モスタル大学）
- ・ レイラ・ブルギッチ（サラエボ大学）
- ・ アイヌル・カニジャ（サラエボ大学）

韓国

- ・ キム・ジュニョン（江原国立大学校）
- ・ 坪井佑介（江原国立大学校）

日本

- ・菅原一花（東京大学）
- ・山村絢（東京大学）
- ・横森翼（慶應義塾大学）
- ・野末美樹（慶應義塾大学）
- ・成瀬茉倫（慶應義塾大学）*12月6-8日

2) 教員・スタッフ

- ・ディーノ・アバゾビッチ（サラエボ大学教授）
- ・西村明（東京大学教授）
- ・犬塚悠太（東京大学大学院博士課程学生）
- ・立田由紀恵（東京大学先端科学技術研究センター特任研究員）

【スケジュール】

12月2日（月）	参加者伊仙町到着
12月3日（火）	開会式、徳之島の歴史についての講演（松岡）、グループワーク
12月4日（水）	学生グループワーク
12月5日（木）	エクスカージョン（犬田布岬、母間カトリック教会等）
12月6日（金）	学生グループワーク、犬田布小学校児童との交流会
12月7日（土）	グループワーク報告会、島の子どもたちとの交流会
12月8日（日）	参加者伊仙町出発

【概要】

今回のユースキャンプでは、ボスニアで政治社会的な分断の深まる3民族それぞれの代表的な大学（セルビア人のバニャルカ大学、クロアチア人のモスタル大学、ボシュニャクが中心のサラエボ大学）から学生が2名ずつ参加し、全行程を通じて仲間として互いに分け隔てなく過ごし、民族ごとの言語の呼び名（セルビア語、クロアチア語、ボスニア語）を使わないなど互いに配慮する様子が見られた。

「戦後社会を生きること」をテーマとしたグループワークでは、3民族の対立が政治的に煽られたものであり個人レベルには及ばないこと、戦争では3つの民族がいずれも苦しんだこと、3

民族は言語や文化を共有しており互いをはっきり区別するものはないことなどが強調された。これら3大学の学生が交流する機会はほとんどないが、本キャンプはボスニアへの政治面での関与が大きい欧米ではなく、また3民族を隔てる3宗教（セルビア正教、カトリック、イスラーム）文化圏のいずれにも属さない日本をホストとしたことで、戦後社会という課題という分断に結びつくような課題に共に向き合うことができたのかもしれない。

参加者全員で徳之島にある三町（徳之島町、天城町、伊仙町）の教育委員会を訪問した。三町とも英語教育や遠隔教育に積極的に取り組んでおり、その取り組みを次年度のキャンプと連携させることが話し合われた。今回は伊仙町立犬田布小学校の児童と参加学生がスポーツなどを通じて交流し、またその交流から参加日本人学生と児童との遠隔英会話レッスンが計画されるなど、徳之島における国際教育推進への貢献が始まりつつある。

また、モスタル大学から参加したクロアチア人学生の協力で、モスタル大学との研究交流も進む見通しが立った。10月に西村明東京大学教授と立田由紀恵東京大学先端科学技術研究センター特任研究員がバニャルカ大学を訪問し、ROLESを介したサラエボ大学とバニャルカ大学との間の研究協力の計画を進めているが、これにモスタル大学も加えた3大学の連携へと発展することが期待される。

外国シンクタンク・有識者等との連携及びネットワークを通じた国際世論の醸成

本事業では、上記目的を達成するため、（1）ROLESメンバー及び研究会を主体とした外国有識者、シンクタンクとの意見交換／国際ワークショップ・シンポジウムの実施、（2）海外調査を通じた外国有識者、シンクタンクとのネットワーク強化、を実施した。

3. 国際的な議論を先導するシンポジウムの開催

本事業が単独または「国際理念と秩序の潮流」「自由民主主義秩序を支える情報プラットフォームの構築」と連携して実施した国際シンポジウムは以下の通り。

日時	イベント名	講演者（所属）	形式	事前 登録	当日 参加	共催機関	実施研究会
2024/4/17	RCAST Security Workshop "War in Gaza and its Repercussions on Security Dynamics in the Middle East"	池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）、Sayed Ghoneim（MG (Ret.), Chairman of IGSDA）、小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）、Ahmed Adel Abdelaal（Assistant Researcher of IGSDA）、Ahmed Magdy Megaly（Assistant Researcher of IGSDA）、Rozann Ghoneim（Intern at IGSDA）	対面	-	20	-	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」
2024/4/22	国際セミナー「コンスタンチノーブル会議（1876）と近代日本外交の黎明」	渡邊英徳（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）、平澤彰悟（東京大学大学院情報学環修了）、池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）、コルクット・ギュンゲン（駐日トルコ共和国大使）、エテム・エルデム（ボアジチ大学教授）、ジラルデッリ青木美由紀（イスタンブール工科大学）、瀧井一博（国	対面	19	24	-	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」

		際日本文化研究センター教授)					
2024/5/13	日本・中東戦略対話	池内恵(ROLES 代表)、ザイド・イヤダト CSS 所長	対面	-	180	ヨルダン大学戦略研究センター (CSS)	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」 研究会「紛争解決の理論と実践」との合同事業
2024/6/5	国際セミナー「中東王室の外交儀礼と日本：外交贈答品とその展示空間」	池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）、アッバス・ヒルミ、ジラルデッリ青木美由紀（イスタンブール工科大学・建築学部・准教授補）、日高薫（国立歴史民俗博物館研究部／情報資料研究系・教授）、岡本隆志（独立行政法人国立文化財機構・皇居三の丸尚蔵館学芸部・展示・普及課・主任研究員）	対面	47	34	イスタンブール工科大学建築学部、人間文化研究機構 共創先導プロジェクト「外交と日本コレクション」	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」 研究会「日本の価値観外交の検証と再構築」との合同事業
2024/6/8	東大駒場リサーチキャンパス公開 2024「激動する中東情勢: ガザ紛争の後に来るものは何か？」	池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）、国末憲人（東京大学先端科学技術研究センター特任教授）、ギブール・ドラモット（フランス国立東洋言語	ハイブリッド	395	231		研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」

		文化学院（INALCO）教授・ 東京大学先端科学技術研究 センター客員上級研究員）					
2024/6/20	台湾師範大学でシ ンポジウムを開催	川島真（東京大学大学院総 合文化研究科教授）、池内 恵（東京大学先端科学技術 研究センター教授）、東野 篤子（筑波大学人文社会系 教授）、小泉悠（東京大学 先端科学技術研究センター 准教授）、松尾健司（東京 大学大学院総合文化研究科 博士課程）、頼志樞（台湾 師範大学国際及び社会科学 学部・学部長）、張崑将 （台湾師範大学国際および 社会科学学部東アジア学 科・学科長）、江柏煒（台 湾師範大学国際および社会 科学学部東アジア学科・優 聘教授）、荊元宙（国防大 学政治作戦学院・中共軍事 事務研究所・所長）、陳文 政（台湾師範大学国際およ び社会科学学部東アジア学 科・教授）、徐筱琦（台湾 師範大学国際および社会科 学学部東アジア学科・副教 授）、林昌平（台湾師範大 学国際および社会科学学部	対面	ー	不明	台北の国 立台湾師 範大学国 際及び社 会科学部	研究会「ユー ラシア諸地域 の内在論理」

		東アジア学科・副教授)、 阮功松 (台湾師範大学国際 および社会科学学部東アジ ア学科・助理教授)					
2024/7/4	共催セミナー「ビ ルマ併合後の朝貢 使節派遣問題と清 朝の「体面」」	トーマス・バレット (Thomas P. Barrett, 英ケ ンブリッジ大学アジア・中 東学部・ポストドクトラル 研究員／ウルフソン・カレ ッジ・フェロー)、川島真 (東京大学大学院総合文化 研究科教授)、岡本隆司 (早稲田大学教育・総合科 学学術院教育学部教授)、 池内恵 (東京大学先端科学 技術研究センター教授)、 伊藤和歌子 (東京大学先端 科学技術研究センター・シ ニアプログラム・コーディネ ーター)、小林弘幸 (東 京大学先端科学技術研究セ ンター特任研究員)	対面	-	30	東アジア 国際関係 史研究会	研究会「ユー ラシア諸地域 の内在論理」
2024/7/22	シンポジウム「戦 時下のウクライナ で人々は何を見、 感じているのか」	国末憲人 (東京大学先端科 学技術研究センター特任教 授)、東野篤子 (筑波大学 教授)、中井遼 (東京大学 先端科学技術研究センター 教授)、小泉悠 (東京大学 先端科学技術研究センター 准教授)、池内恵 (東京大	ハイ ブリ ッド	467	328		研究会「ロシ ア・ウクライ ナ戦争の背 景・展開・帰 結」

		学先端科学技術研究センター教授)					
2024/7/29	RCAST セキュリティ・セミナー「ウクライナとベラルーシにおける女性と革命」	服部倫卓（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授）、オレーナ・ニコラエンコ（フォーダム大学政治学部教授）、東野篤子（筑波大学人文社会系教授）、小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）、池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）	対面	33	14	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター	研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰結」 研究会「東欧、中・東欧、バルカン諸国の自由・民主主義の帰趨」との合同事業

2024/9/18	国際会議「持続的な安全保障と最先：人工知能（AI）の役割」	ファータィマ・アル・ヤンマーヒー（TRENDS Research & Advisory 戦略パートナーシップ専門員）、杉山正和（東京大学先端科学技術研究センター所長）、ムハンマド・アブドゥラー・アル・アリー（UAE・TRENDS Research & Advisory 最高経営責任者）、相原博昭（東京大学理事・副学長）、シハーブ・アハマド・アル・ファヒーム（アラブ首長国連邦・駐日大使）、松尾剛彦（経済産業省・経済産業審議官）（ビデオ・メッセージ）、三宅浩史（外務省・中東アフリカ局参事官）、オマル・スルターン・アル・ウラマー（アラブ首長国連邦 AI・デジタル経済・遠隔勤務担当国務相）、ファイサル・アル・バンナーイー（アラブ首長国連邦・先端技術調査評議会事務局長）、河野龍興（東京大学先端科学技術研究センター教授・附属エネルギー国際安全保障機構・機構長）、	ハイブリッド	201	130	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」 研究会「先端科学技術と安全保障」 研究会「紛争解決の理論と実践」 研究会「言説空間分析の文理横断的方法と応用」との合同事業
-----------	---	---	--------	-----	-----	--

		原田達也（東京大学先端科学技術研究センター教授）、カイス・ハンマーミ（イスラーム世界教育・科学・文化機関（ICESCO）戦略予見・AI センター長）、ムハンマド・スレイマーン（米国・中東研究所（MEI）戦略技術・サイバーセキュリティ部門長）、アワド・アル・ブレイキー（UAE・TRENDS Research & Advisory 主任研究員・グローバル部門長）、杉山将（東京大学大学院新領域創成科学研究科・複雑理工学専攻教授/理化学研究所・革新知能統合研究センター長）、ビラール・サアブ（UAE・TRENDS Research & Advisory 米国・中東関係部長）、矢入健久（東京大学先端科学技術研究センター教授）、プレスラフ・ナコフ（UAE・ムハンマド・ビン・ザーイド人工知能大学教授）、ルイジ・マルティノー（UAE・ハリーファ大学サイバーセキュリティ・アカデミー所長）、保					
--	--	--	--	--	--	--	--

		坂修司（日本エネルギー経済研究所・中東研究センター研究顧問）、江崎浩（東京大学大学院・情報理工学系研究科教授）、ムーサー・アル・マルズキー（UAE・TRENDS リサーチ & アドバイザリー株式会社・経済研究室長）、近藤重人（日本エネルギー経済研究所・中東研究センター主任研究員）、アブドゥッラー・アル・アッパースィー（バーレーン戦略国際エネルギー研究センター（Derasat） エネルギー・環境プログラム長）					
2024/9/19	国際会議「持続的な安全保障と最先：人工知能（AI）の役割」	佐藤丙午（拓殖大学教授）、渡邊英徳（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授・情報学環メディア・コンテンツ総合研究機構・機構長）、小泉悠（東京大学先端科学技術研究センター准教授）、モーゼス・カニイレ教授（南アフリカ・ステレンボッシュ大学軍事科学部・防衛人工知能ユニットディレクタ	ハイブリッド	209	109		研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」 研究会「先端科学技術と安全保障」 研究会「紛争解決の理論と実践」 「自由民主主義秩序を支え

		ー)、パトリック・ベル (米国・国防大学助教 授)、マノジュ・ハルジャ ーニー (シンガポール・南 洋工科大学ラジャラトナム 国際関係大学院 (RSIS) 防 衛戦略研究所・研究フェロ ー)、スマーヤー・アル・ ハドラミー (UAE・ TRENDS Research & Advisory グローバル部門長 代理)、稲見昌彦 (東京大 学先端科学技術研究センタ ー教授・総長特任補佐)、 門内靖明 (東京大学先端科 学技術研究センター准教 授)、エルネスト・ダミア ーニ (UAE・ハリーファ大 学サイバー物理システム (C2PS) 教授・情報安全保障 センター所長)、アブドル モッタレブ・アル・サディ ーク (UAE・ムハンマド・ ビン・ザーイド人工知能大 学兼任教授)、ヒメナ・ヴ ィヴェロス (メキシコ最高 裁判事法律顧問長・国連 AI 高等諮問委員会委員)、マ ーゼン・ハサン (エジプ ト・カイロ大学政治経済学				る情報プラッ トフォームの 構築」 研究会「言説 空間分析の文 理横断的方法 と応用」との 合同事業
--	--	--	--	--	--	---

		部教授)、中井遼(東京大学先端科学技術研究センター教授)、ヌール・アル・マズルーイー(UAE・TRENDS リサーチ & アドバイザリー・AI プログラム代表)、ムハンマド・スレイマーン(米国・中東研究所(MEI) 戦略技術・サイバーセキュリティ部門長)、池内恵(東京大学先端科学技術センター教授・創発戦略研究オープンラボ(ROLES) 代表)、スマーヤー・アル・ハドラミー(UAE・TRENDS Research & Advisory グローバル部門長代理)					
2024/9/20	RCAST Security Seminar on American Grand Strategy after the U.S. Presidential Elections by Mr. Mohammed Soliman	池内恵(東京大学先端科学技術研究センター教授)、Mohammed Soliman(中東研究所)	対面	6	9		研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」
2024/10/8	ウクライナでの戦争犯罪追及に関するフォーラム開催	アキール・カンパーニャ(国際刑事裁判所弁護士会(ICCBA))、他研究者や学生ら	対面		約70	早稲田大学法学研究科	研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰

							結」
2024/10/10	ウクライナでの戦争犯罪を追及する国際弁護士を招いて、広島で研究フォーラム	アキール・カンパーニャ (国際刑事裁判所弁護士会 (ICCBA))	対面	－	約 20	広島平和 研究所	研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰結」
2024/11/22	国際ワークショップ「東シナ海対話フォーラム」	池内恵（東京大学教授）、川島真（東京大学教授）、園田耕司（朝日新聞政治部次長）、松田康博（東京大学教授）、鈴木隆（大東文化大学教授）、任天豪（国防大学副教授）、廖文碩（国史館研究員）、伊藤和行（朝日新聞社那覇総局長、記者）、蔡東杰（国立中興大学教授）、伊藤和歌子（日本国際フォーラム理事兼研究主幹）、岡本隆司（早稲田大学教授）、国吉聡志（沖縄タイムズ記者）、松田良孝（フリージャーナリスト）、高田正幸（朝日新聞記者）（※台湾・沖縄出席者は非公開）	対面	－	16	－	研究会「ユーラシア諸地域の内在論理」
2024/11/29	セミナー「芦田均とトルコージャズ・エイジのイスタンプル」	池内恵（東京大学先端科学技術研究センター教授）、矢嶋光（名城大学准教授）、ジラルデッリ青木美	対面	43	30	－	研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」

		由紀（イスタンブール工科大学准教授補）					
2024/12/2～ 8	第2回徳之島国際 ユースキャンプ	立田由紀恵（東京大学先端 科学技術研究センター特任 研究員）、ボスニア・ヘル ツェゴビナ：サラエボ大 学、モスタル大学、バニャ ルカ大学、江原国立大学 校、東京大学、慶應義塾大 学 各大学2名ずつ、計12 名	対面	-	12	-	3事業共通、 「国際理念と 秩序の潮流」 の研究会「宗 教と国際秩 序」が中心
2024/12/20	越智萌・立命館大 学准教授による ICC逮捕状をめぐ る特別講義	越智萌（立命館大学国際関 係学部准教授）	対面	-	-	-	研究会「中 東・イスラーム世界の多極 化と均衡」
2024/12/22	わかものが考える 日本のグランドデ ザインとは 第1 回 日本のエネル ギー安全保障 原 発再稼働の是非と エネルギー政策の 将来（QWSアカ デミア東京大学）	小泉悠（東京大学先端科学 技術研究センター准教授） 他	対面	-	-	渋谷スク ランブル スクエア 15階 SHIBUYA QWS ク ロスパー ク、わか もの政策 研究会	わかもの政策 研究会
2025/2/5	科学技術と安全保 障ダイアログ 第 1回「衛星画像で 何がわかる？」	小泉悠（東京大学先端科学 技術研究センター准教授／ ROLES 副代表／DEEP DIVE 理事）、北原大介・大和純 （日本地球観測衛星サービ	対面	31	21		研究会「先端 科学技術と安 全保障」

		ス：JEOSS）、吉川智美 (Synspective)、指原佑佳 (東京大学先端科学技術研 究センター交流研究生／東 京工業大学大学院修士課 程)、牛島光一(筑波大学 システム情報系准教授)、 渡邊浩崇(大阪大学招へい 教授)					
2025/2/7	ROLES コモンル ーム・トーク第1 回(宮島昭夫・前 ポーランド大使)	宮島昭夫(前ポーランド大 使・元トルコ大使)、川島 真(東京大学大学院総合文 化研究科教授)、東野篤子 (筑波大学人文社会系教 授)、松尾豪(合同会社エ ネルギー経済社会研究所代 表取締役)、長谷川雄之 (防衛研究所地域研究部米 欧ロシア研究室 主任研究 官)、池内恵(東京大学教 授)他	対面 及び ハイ ブリ ッド	8	8		
2025/3/6	【日米緊急対話】 「トランプ復活と ロシア・ウクライ ナの行方」(北大 スラブ・ユーラン ア研)	マイケル・キメッジ(ウィ ルソン・センター ケナン研 究所所長)、小泉悠(東京 大学先端科学技術研究セン ター 准教授)、服部倫卓 (北海道大学スラブ・ユー ラシア研究センター 教授)	対面 及び ハイ ブリ ッド	355	319	北海道大 学スラ ブ・ユー ラシア研 究センタ ー、北極 域研究加 速プロジ ェクト	研究会「ロシ ア・ウクライ ナ戦争の背 景・展開・帰 結」

						(ArCS II) 社会 文化課題	
2025/3/31	【共催】シンポジウム Beyond the Headlines—データ・メディア・テクノロジーで読み解くガザ危機の深層—	渡邊 英徳（東京大学）、ハニーン・シェハーデ（ニューヨーク大学アブダビ校） 滋野井 公季（東京大学）、ターミル・アル＝ミシャル（アルジャジーラ）※オンライン参加、エゼッディーン・アブデルモウラー（アルジャジーラ研究所） ※オンライン参加、ハニーン・シェハーデ（ニューヨーク大学アブダビ校）、池内 恵（東京大学）、竹下 隆一郎（TBS）、ラーミー・ズライク（ベイルート・アメリカン大学）、井上 直樹（NHK）、黄田 和宏（日経新聞）、小泉 悠（東京大学）、指原 佑佳（東京大学）、ジャミーラ・ガッダール（アムステルダム大学）、マリアム・カリーム（ノースウェスタン大学カタール校）、鈴木 聡（NHK）、梁田 真樹子（読売新聞）、小松 尚平（東京大学）	対面	-	約 150	アルジャジーラ、ベイルート・アメリカン大学、株式会社 Quick	研究会「先端科学技術と安全保障」

3-2 事業の実施状況・成果の定量的概要

【調査】

- ・情報収集・調査実施回数： 126 回（研究会合＋国内外ヒアリング＋政府関係ヒアリング）

【会議】

- ・研究会の実施数： 27 回
- ・シンポジウム／セミナー／ワークショップ等の主催・共催数： 24 回
- ・他団体主催のシンポジウム／セミナー／ワークショップ等への参加数： 2 回
（ROLES メンバーによる参加回数も併せて集計）

【情報発信】

- ・インタビューや報道発表の実施数： 225 回 （ROLES メンバー3 月まで／先端研職員によるもののみ集計／ROLES で実施している他の事業と合計）
- ・論文やコメントリーの発出数： 114 回
- ・政策提言を含む報告書の発出数： 7 回
- ・学術誌の発行： 1 回 （ROLES Review の発行回数）

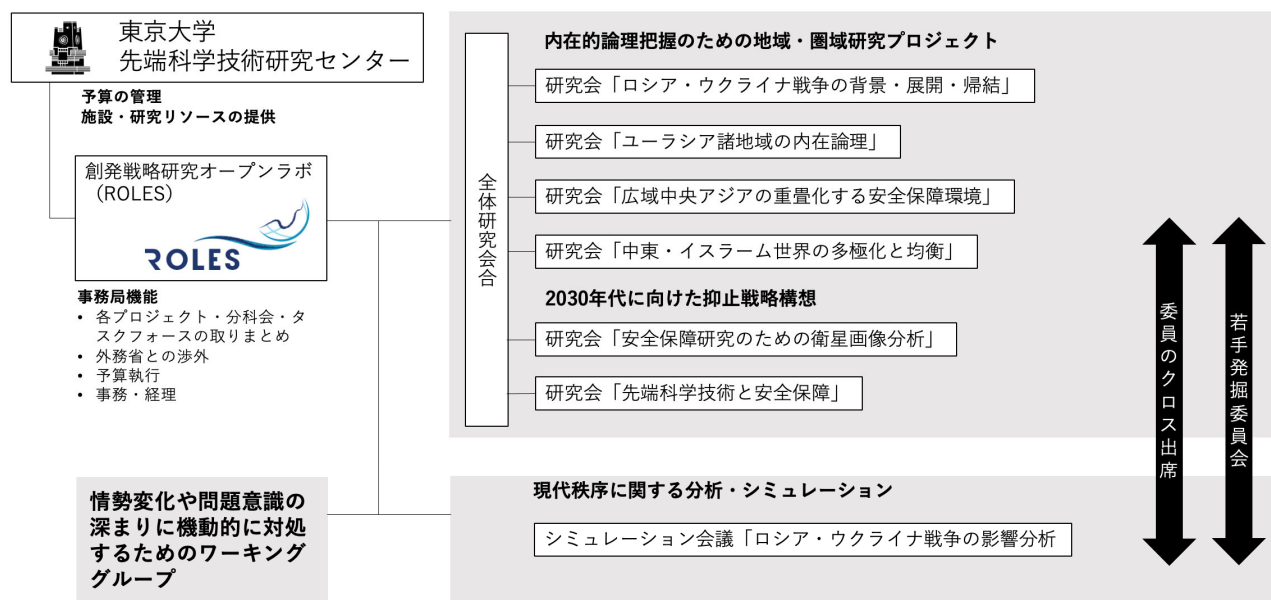
URL は 3-1（別紙）「イベントのメディア掲載」「ROLES ウェブサイトを通じた発信」に記載済み。

※ 主要なものにつき、審査委員や政府関係者などが閲覧できるよう URL（未発表のものは概要）を記載。また、上記以外の情報発信（メールマガジン配信、ウェビナー動画の発信など、独自に実施している情報発信）も該当があれば記載すること。

4-1 事業実施体制

- ・事業を実施するための人的体制、それぞれの役割分担等を記載のこと。
 - ・必要に応じ、それぞれの経験、能力等を示す資料を別添可。
 - ・若手、女性研究者、地方在住の研究者にカウントしている場合はそれを分かるようにすること。
- (※) 年齢・性別は評価の際の参考情報として記載するものであり、対外公表はしない。

1 組織図（自由書式）



実施体制図

※ 複数の分科会／研究会が設けられている場合は、それらが有機的に連携するためにどのような体制が取られているか明示すること。

※ 予算の執行・管理体制を明示すること。

2 メンバー詳細

事業総括、グループリーダー、研究担当、渉外担当、経理担当等	氏名	所属機関・部局・職	役割

の別			
事務局 (ROLES)			
事業総括	池内 恵	東京大学先端科学技術研究センター教授	事業全体の総括(事業全体の企画・管理等)
事業総括	池内 恵	東京大学先端科学技術研究センター教授	事業全体の総括(戦略企画・アウトリーチ担当)
副事業総括	国末 憲人	東京大学先端科学技術研究センター特任教授	事業全体の副総括
副事業総括	小泉 悠 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター准教授	事業全体の副総括(研究企画担当)
副事業総括	伊藤 和歌子 (女性)	東京大学先端科学技術研究センターシニアプログラム・コーディネーター	事業全体の副総括(プロジェクト管理担当)
事業総括補佐	立田 由紀恵 (女性)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	事業総括の補佐(総務担当)
事業総括補佐	鍛冶 一郎 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	事業総括の補佐(広報・データベース担当)
経理管理	辻谷 宏人	東京大学・先端科学技術研究センター事務部・上席係長(外部資金担当)	経理事務の管理・監督
経理	表 真琴 (女性)	東京大学先端科学技術研究センター事務補佐員	経理に関わる実務
広報	田中 周 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	アウトリーチ活動に関わる実務
広報	金子 美和 (女性)	東京大学先端科学技術研究センター事務補佐員	アウトリーチ活動に関わる庶務
連絡調整	西山 美久 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任助教	事業メンバー・学内との連絡・調整
連絡調整	狩野 希望 (若手・女性)	東京大学先端科学技術研究センター協力研究員	事業メンバーとの連絡・調整
連絡調整	石本 凌也(若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	事業メンバー・学内との連絡・調整
連絡調整	小林 弘幸(若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	事業メンバー・学内との連絡・調整
研究会「ロシア・ウクライナ戦争の背景・展開・帰結」			
座長	小泉 悠 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター准教授	ロシア・ウクライナの軍事・安全保障政策研究
幹事・研究担当	西山 美久 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任助教	ロシアのナショナリズム研究
研究担当	山添 博史	防衛省防衛研究所地域研究部主任研究官	ロシアの軍事・安全保障政策研究
研究担当	長谷川 雄之 (若手)	防衛省防衛研究所地域研究部研究員	ロシアの軍事・安全保障政策研究
研究担当	浜 由樹子 (女性・地方在住)	静岡県立大学国際関係学研究科准教授	ロシア思想研究
研究担当	麻田 雅文 (地方在住)	岩手大学人文社会科学部准教授	ロシア史研究

研究担当	服部 倫卓 (地方在住)	北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授	ロシア・ウクライナ・ベラルーシの経済・産業研究
研究担当	大串 敦	慶應義塾大学法学部政治学科教授	ロシア・ウクライナの内政研究
研究担当	岡部 芳彦 (地方在住)	神戸学院大学経済学部教授	ウクライナの内政研究
研究担当	松嵯 英也 (若手)	津田塾大学学芸学部講師	ウクライナの軍事・安全保障政策研究
研究担当	東野 篤子 (女性・地方在住)	筑波大学人文社会系教授	ウクライナとEUの対外政策研究
研究担当	合六 強 (若手)	二松学舎大学国際政治経済学部准教授	欧州・ロシア・ウクライナ関係研究
研究担当	松尾 豪 (若手)	合同会社エネルギー経済社会研究所 代表取締役	エネルギー、電力の市場や政策に関する知見の提供、調査研究、発信等
研究担当	原田 大輔	独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構調査部調査課長	エネルギー安全保障研究
研究担当	富澤 寿則	東京大学先端科学技術研究センター連携研究員	ロシアの安全保障・サイバー、中央アジアの安全保障
研究会「ユーラシア諸地域の内在論理」			
座長	川島 真	東京大学大学院総合文化研究科教授	中国の内政・外交研究
幹事・研究担当	伊藤 和歌子 (女性)	東京大学先端科学技術研究センター シニア・プログラム・コーディネーター	中国の科学技術研究
幹事	小林 弘幸 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	安全保障研究
研究担当	小泉 悠 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター准教授	ロシア・旧ソ連の軍事安全保障研究
研究担当	松田 康博	東京大学東洋文化研究所教授	中国・国際関係研究
研究担当	山口 信治	防衛研究所地域研究部主任研究官	中国の軍事・安全保障政策研究
研究担当	岡本 隆司	早稲田大学教育・総合科学学術研究院教授	中国史研究
研究担当	鈴木 隆	大東文化大学東洋研究所教授	中国内政研究
研究担当	家永 真幸	東京女子大学現代教養学部准教授	台湾外交研究
研究担当	宮本 悟	聖学院大学政治経済学部教授	北朝鮮内政研究
研究担当	田中 周 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	新疆ウイグル・中央アジア研究
研究担当	鈴木 絢女 (女性・地方在住)	立教大学大学院法学研究科教授	東南アジア政治研究
研究担当	日下 渉	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授	フィリピン・東南アジア政治研究
研究担当	青木 まき (女性)	アジア経済研究所地域研究センター・動向分析研究グループ長代理	タイ・東南アジア政治研究

研究担当	中西 嘉宏 (地方在住)	京都大学大学院アジア・アフリカ研究研究科准教授	ミャンマー・東南アジア研究
研究担当	西山 美久 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任助教	ロシアのナショナリズム研究
研究担当	岡本 正明 (地方在住)	京都大学東南アジア地域研究研究所教授	インドネシア・東南アジア政治研究
研究会「広域中央アジアの重畳化する安全保障環境」			
座長	稲垣 文昭 (地方在住)	秋田大学大学院国際資源学研究科教授	研究プロジェクトの取り組み、地政学からみる中央アジア
副座長・幹事・研究担当	田中 周 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	中国と中央アジアの反テロ協力
研究担当	伊藤 庄一	一般財団法人日本エネルギー経済研究所資源・燃料・エネルギー安全保障ユニット上級スペシャリスト	中央アジアのエネルギー安全保障
研究担当	加藤 美保子 (女性・地方在住)	広島市立大学広島平和研究所講師	ロシアの対中央アジア戦略
研究担当	齋藤 竜太	ロシア NIS 貿易会ロシア NIS 経済研究所研究員	中央アジアにおける輸送回廊の建設、海洋安全保障
研究担当	周 源 (地方在住)	神戸大学大学院法学研究科研究助手	中国の対中央アジア認識
研究担当	スルトノフ・ミルゾサイド	東洋大学国際学部教授	中央アジアの経済安全保障
研究担当	田中 マリア (若手・女性・地方在住)	秋田大学大学院国際資源学研究科特任助教	シルクロード経済ベルトと中国の安全保障戦略
研究担当	山口 信治	防衛研究所地域研究部主任研究官	中国の対中央アジア軍事外交
研究担当	渡邊 三津子 (女性)	文教大学国際学部准教授	中央アジアの環境安全保障
研究会「中東・イスラーム世界の多極化と均衡」			
座長	池内 恵	東京大学先端科学技術研究センター教授	イスラーム思想・中東政治研究
研究担当	菊地 達也	東京大学大学院人文社会系研究科教授	イスラーム思想・中東政治研究
研究担当	柿崎 正樹	テンプル大学ジャパンキャンパス上級准教授	トルコ・中東政治研究
研究担当	今井 宏平	アジア経済研究所研究員	トルコ・中東政治研究
研究担当	池田 明史	東洋英和女学院大学学事顧問	イスラエル・中東政治研究
研究担当	辻田 俊哉 (地方在住)	大阪大学 CO デザインセンター准教授	イスラエル・中東政治研究
研究担当	吉岡 明子 (女性)	日本エネルギー経済研究所中東研究センター研究主幹	イラク・中東政治研究
研究担当	鈴木 均	アジア経済研究所地域研究センター グローバル研究グループ・上席主任研究員	イラン・アフガニスタン研究

研究担当	狩野 希望 (若手・女性)	東京大学先端科学技術研究センター連携研究員	イスラーム思想研究
研究担当	齋藤 純	アジア経済研究所地域研究センター中東研究グループ	中東経済研究
研究会「安全保障研究のための衛星画像分析」			
座長	山口 亮 (若手)	東京国際大学国際戦略研究所准教授	北朝鮮政治・安全保障研究
幹事	石本 凌也 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター特任研究員	米国政治外交・安全保障政策研究
研究担当	小泉 悠 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター准教授	ロシア軍事・安全保障研究
研究担当	村野 将 (若手・国外在住)	ハドソン研究所研究員	米国安全保障研究
研究担当	北原 大介	NEC/JEOSS	衛星画像取得・分析
研究担当	大和 純	NEC/JEOSS	衛星画像取得・分析
研究担当	佐藤 杏実 (若手・女性)	NEC ネットエスアイ	衛星画像分析
研究担当	小原 凡司	笹川平和財団安全保障研究グループ上席フェロー	中国政治・安全保障研究
研究担当	井上 智太郎	共同通信社外信部副部長	北朝鮮政治・安全保障研究
研究担当	古川 勝久 (地方在住)	自営業コンサルタント・著述業	北朝鮮政治・安全保障研究
研究担当	三浦 壮一郎 (若手)	サイバーディフェンス研究所 OSINT アナリスト	衛星画像分析、オープンソース分析
研究担当	上船 開法 (若手)	KPMG コンサルティングコンサルタント	衛星画像分析、オープンソース分析
研究担当	指原 佑佳 (若手・女性)	東京工業大学大学院環境・社会理工学院修士課程	情報工学研究
研究会「先端科学技術と安全保障」			
座長	池内 恵	東京大学先端科学技術研究センター教授	イスラーム思想・中東政治研究
共同座長	小泉 悠 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター准教授	ロシアの軍事・安全保障研究
研究担当	村野 将 (若手・国外在住)	ハドソン研究所研究員	米国安全保障研究
研究担当	池田 有紀美 (若手・女性・国外在住)	国連軍縮部政務官補	先端技術と安全保障の研究

研究担当	稲見 昌彦	東京大学先端科学技術研究センター教授	ロボティクス・情報工学研究
研究担当	門内 靖明 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター准教授	ロボティクス・情報工学研究
研究担当	渡邊 英徳	東京大学大学院情報学環・学祭情報学府教授	情報工学研究
研究担当	指原 佑佳 (若手・女性)	東京工業大学環境・社会理工学院修士課程	情報工学研究
政策シミュレーション会議「ロシア・ウクライナ戦争の影響分析」			
座長	小泉 悠 (若手)	東京大学先端科学技術研究センター准教授	ロシア・旧ソ連の安全保障政策研究
研究担当	東野 篤子 (女性・地方在住)	筑波大学人文社会系教授	欧州の地域情勢研究
研究担当	遠藤 乾	東京大学大学院法学政治学研究科教授	欧州の地域情勢研究
研究担当	岩間 陽子 (女性)	政策研究大学院大学教授	欧州の安全保障政策研究
研究担当	国末 憲人	東京大学先端科学技術研究センター特任教授	欧州・アフリカの地域情勢研究
研究担当	池内 恵	東京大学先端科学技術研究センター教授	中東の地域情勢研究
研究担当	大庭 三枝 (女性)	神奈川大学法学部教授	アジアの地域情勢研究
研究担当	篠田 英朗	東京外国語大学大学院総合国際学研究院教授	平和構築研究
研究担当	川島 真	東京大学大学院総合文化研究科教授	中国の内政・外交研究

4-2 事業実施体制の定量的概要

研究者数合計 69 名

うち若手（※）研究者数 19 名（全体の 28 %）

うち女性研究者数 15 名（全体の 22 %）

うち地方在住の研究者数 15 名（全体の 22 %）